

KENWOOD

コンパクト コンポ ステレオ ロキシー

ROXY DG99
ROXY DG77

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

CDプレーヤー部は、CDプレーヤー
付属の取扱説明書をご覧ください。

はじめに

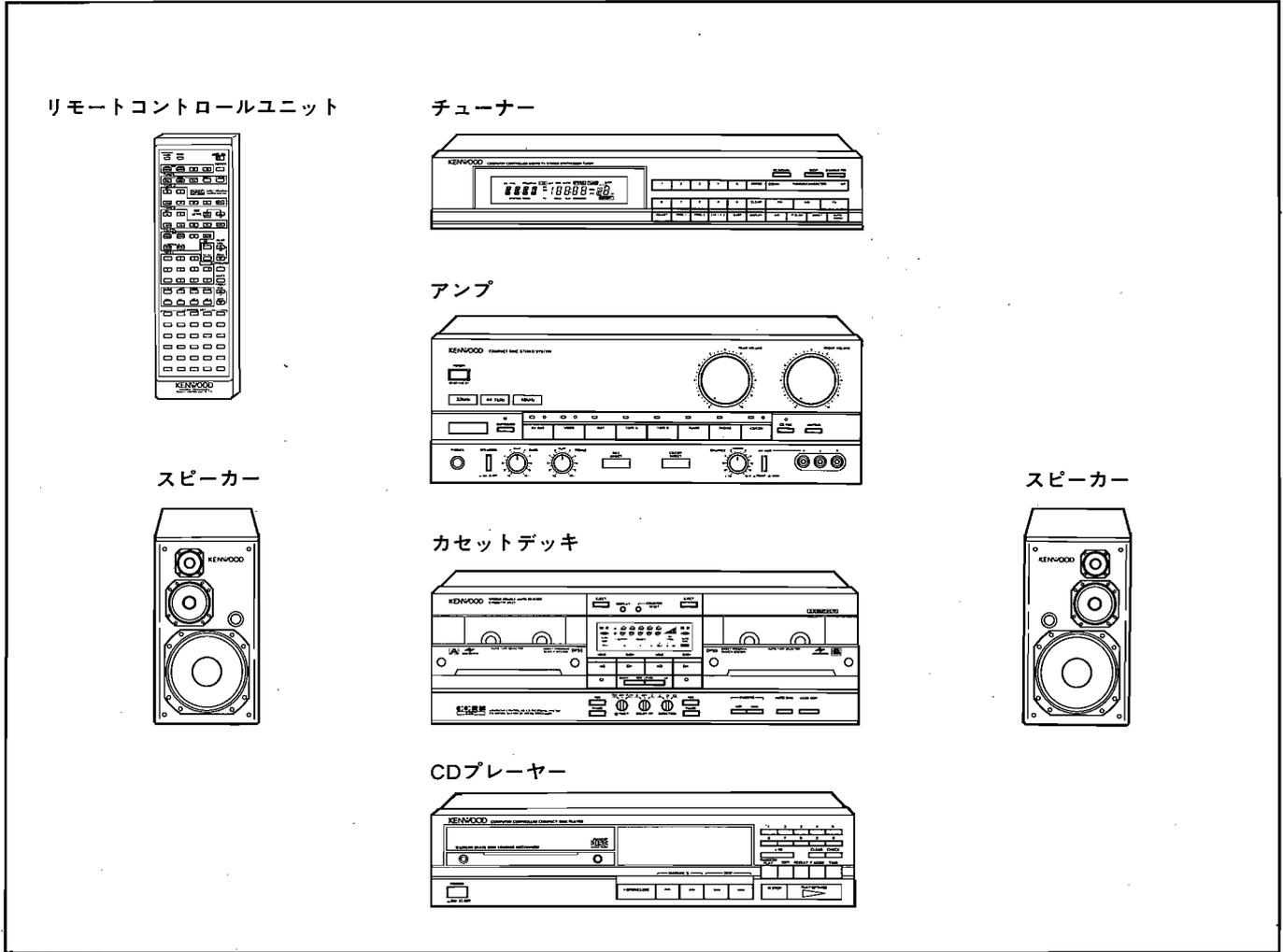
ケンウッド コンパクト コンポ ステレオ ロキシー DG99/DG77 をお買い上げいただきありがとうございます。本機の機能をフルに生かすため、本説明書をよくお読みになり末永くご愛用くださるようお願いいたします。また、お読みになった後も大切に保存してください。

目次

ご注意：▲のついた項目は、感電や火災からあなたを守るためにご使用前に必ずお読みください。

DG99・DG77組みあわせ	3	リレー再生のしかた	29
付属品	3	AデッキまたはBデッキの	
別売機種一覧	4	エンドレス再生のしかた	30
▲ご使用前に	5	DPSSについて	31
セットの取扱上のご注意	5	曲間のつくりかた	31
演奏するときのご注意	6	先の曲の飛越選曲のしかた	32
接続のしかた	7	前の曲の飛越選曲のしかた	32
基本システムの接続	7	一曲リピート再生のしかた	32
アンテナの接続	9	巻戻し再生のしかた	32
スピーカーコードの接続	11	リ・レックスタンバイについて	33
スーパーウーハーについて	12	ダッシュ&プレイについて	33
各部の名称	13	テープ録音のしかた	34
チューナー各部の名称	13	通常の録音	34
アンプ各部の名称	14	録音の準備のしかた	34
スピーカー各部の名称	14	録音のしかた	35
カセットデッキ各部の名称	15	便利な録音のしかた	36
リモートコントロールユニットについて	16	リレー録音のしかた	36
各部の名称	16	同じソースをA、B両デッキで録音するとき	36
操作のしかた	17	シンクロ録音のしかた	37
アンプの操作のしかた	19	CDの録音のしかた	39
チューナーの時刻あわせについて	22	CD RECの使いかた	39
時刻あわせのしかた	22	CCRS <small>エディット</small> EDITの使いかた	40
放送をきくとき	23	テープのダビング	42
通常を選局	23	映像機器を使用するには	43
オート選局のしかた	23	タイマーについて	44
マニュアル選局のしかた	23	タイマーの使いかた	44
ダイレクト選局のしかた	24	各機器の準備	45
プリセット選局	25	タイマープログラムの実行のしかた	47
放送局をプリセットするには	25	スリープタイマー機能について	48
プリセット選局のしかた	26	サラウンドについて	49
放送局名表示	27	故障と思われる症状ですが	50
文字入力 of のしかた	27	アフターサービスについて	52
文字の変更をするには	28	定格	53
カセットテープをきくとき	29		
テープ再生のしかた	29		

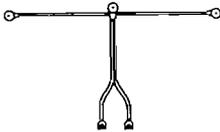
DG99/DG77組みあわせ



付属品

段ボールを開けましたら、各部品が全てそろっていることを確認してください。(アンプに付属しています。)
 包装材は引越し、修理依頼時等のために、必ず保存しておいてください。

FM・TV用T型室内アンテナ(1本)



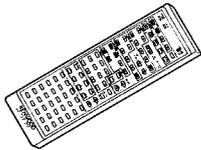
AMループ室内アンテナ(1個)



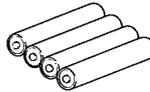
ループアンテナスタンド(1個)



リモートコントロールユニット(1個)



乾電池SUM-4(4個)



オーディオコード(3本)
(ステレオ両ピンプラグ付)



システムコントロールコード(2本)
(ミニプラグ付)



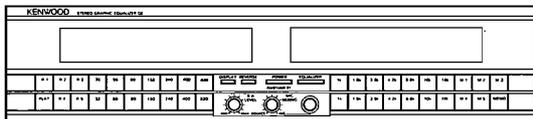
スピーカーコード(2本)
(スピーカーに付属)



CDプレーヤー部の付属品はCDプレーヤーの取扱説明書をごらんください。

別売機種一覧

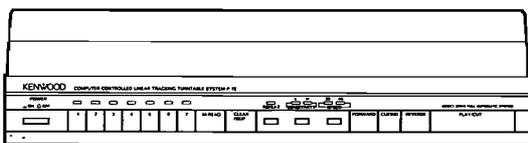
GE-77E(ステレオ グラフィック イコライザー)



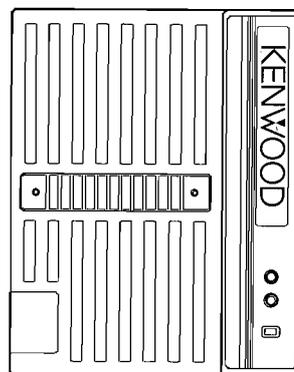
CM-5, CM-7(サラウンド スピーカー システム)



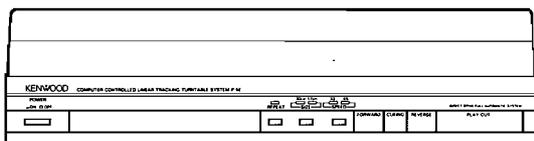
P-7E(プレーヤー)



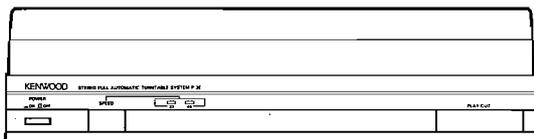
SW-77E(スーパーウーハー)



P-5E(プレーヤー)



P-3E(プレーヤー)



ご注意：

ROXY DG99/DG77は、各機器間の相互制御を行っておりますので、オプションについては上記種類の中からお選びの上ご使用ください。

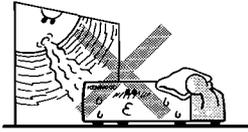
ご使用の前に

△この頁は安全確保のために必ずお読みください。

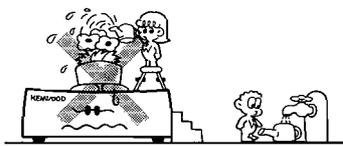
セットの取扱上のご注意

■設置上のご注意

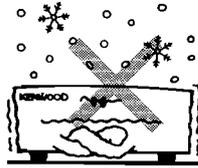
直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また湿気の多い所はさけてください。



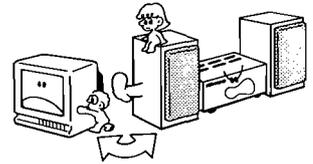
極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。



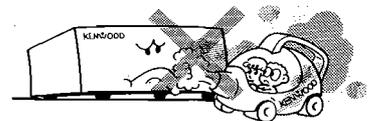
放熱をよくするため、本など、ものをセットの上に置かないでください。また、壁から10cmくらい離してください。



雑音が入る場合は、テレビからできるだけ離してご使用ください。



不安定な棚などはさけ、ホコリ、振動の少ない水平な場所に設置してください。



■使用上のご注意

本システムは、交流100V専用です。200Vでは絶対に使用しないでください。



電源コードを強く引っばったり、無理に折りまげたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。抜くときは、プラグを持ってください。



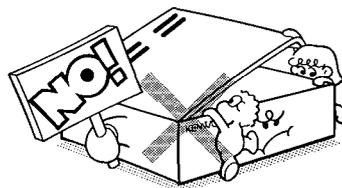
コードをもたない

ご注意：本機の背面に用意された電源コンセントの最大容量は次の通りです。

電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行なわないでください。感電するおそれがあります。

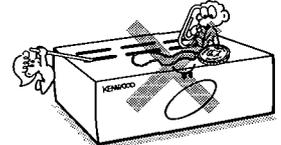


ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手をふれると感電、故障の原因となることがあります。

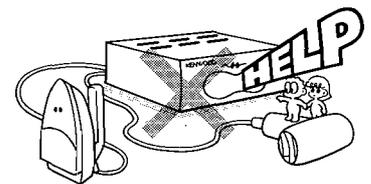


内部には手をふれない

システム背面の電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。



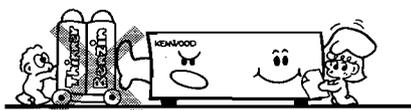
背面の電源コンセントは音響機器専用です。また、消費電力が表示容量より大きい機器を接続しないでください。アイロン、トースターなどは絶対に接続しないでください。



- 連動電源コンセント300W
- 非連動電源コンセント100W

■セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、やわらかい布でからぶきます。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。



■異常にお気づきのさいは

万一、煙がでて、また変な臭いがするなどの異常がおきたときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター、営業所へご連絡ください。

POWER OFF



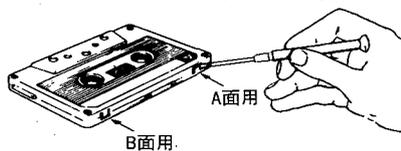
演奏するときのご注意

■カセットテープについてのご注意

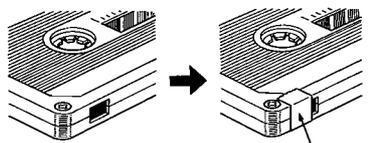
●誤消去防止装置

大切な録音のあとには、この部分のツメを折ってください。誤消去・誤録音が防げます。

大切な録音のあとには
ドライバーなどでツメを折る



誤消去防止装置

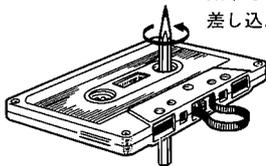


再び録音するには

●テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差込んで、テープのたるみをとってから装着してください。

鉛筆をリール軸に
差し込んで回す。



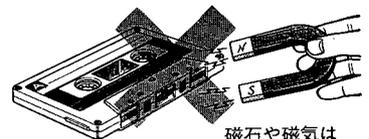
テープがたるんでいる場合

●120分用テープについて

120分用テープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりしてトラブルが発生しやすいのでご使用は避けてください。

●カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。また、磁石や磁気は近づけないでください。



磁石や磁気は
近づけない。

大切な録音を消さないためには

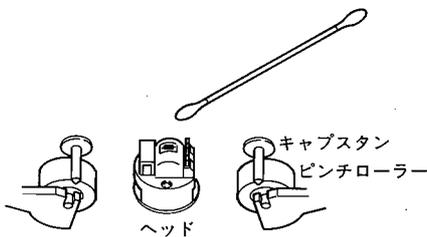
●エンドレステープについて

エンドレステープは故障の原因となりますのでご使用は避けてください。

■お手入れのしかた

ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最高の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、消去ヘッド、録音・再生ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。クリーニングは、次の手順で行ってください。



1. イジェクトボタンを押し、カセットホルダーをあけてください。
2. 消去ヘッド、録音・再生ヘッド、およびキャプスタン、ピンチローラーを、クリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングしてください。そのあと、からぶきしてください。

ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販のヘッドイレーサーで消磁してください。

ご注意：

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングのさいは、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。

■露付きにご注意

水蒸気が、冷たい物の表面にふれてできた水滴を露(つゆ)といいます。

たとえば冷蔵庫から取り出したビンなどの容器の表面に、暖かい部屋の空気がふれて水滴がでることがありますが、このような現象を露付き(結露または露結)といいます。

この現象がおきますと、正常に動作しないかまたは、まったく動作しないことがあります。

これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。(本システムの電源スイッチをONにした状態で、そのまま放置しておいてください。長くても数時間で露が乾いてきます。)

次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

- 寒いところから暖かい部屋など気温差の高いところへ持ち込んだとき。
- 暖房を効かせはじめたとき。
- 冷房のよく効いた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機と外気との差が大きく、露付きの状態となりやすい条件のとき。

接続のしかた

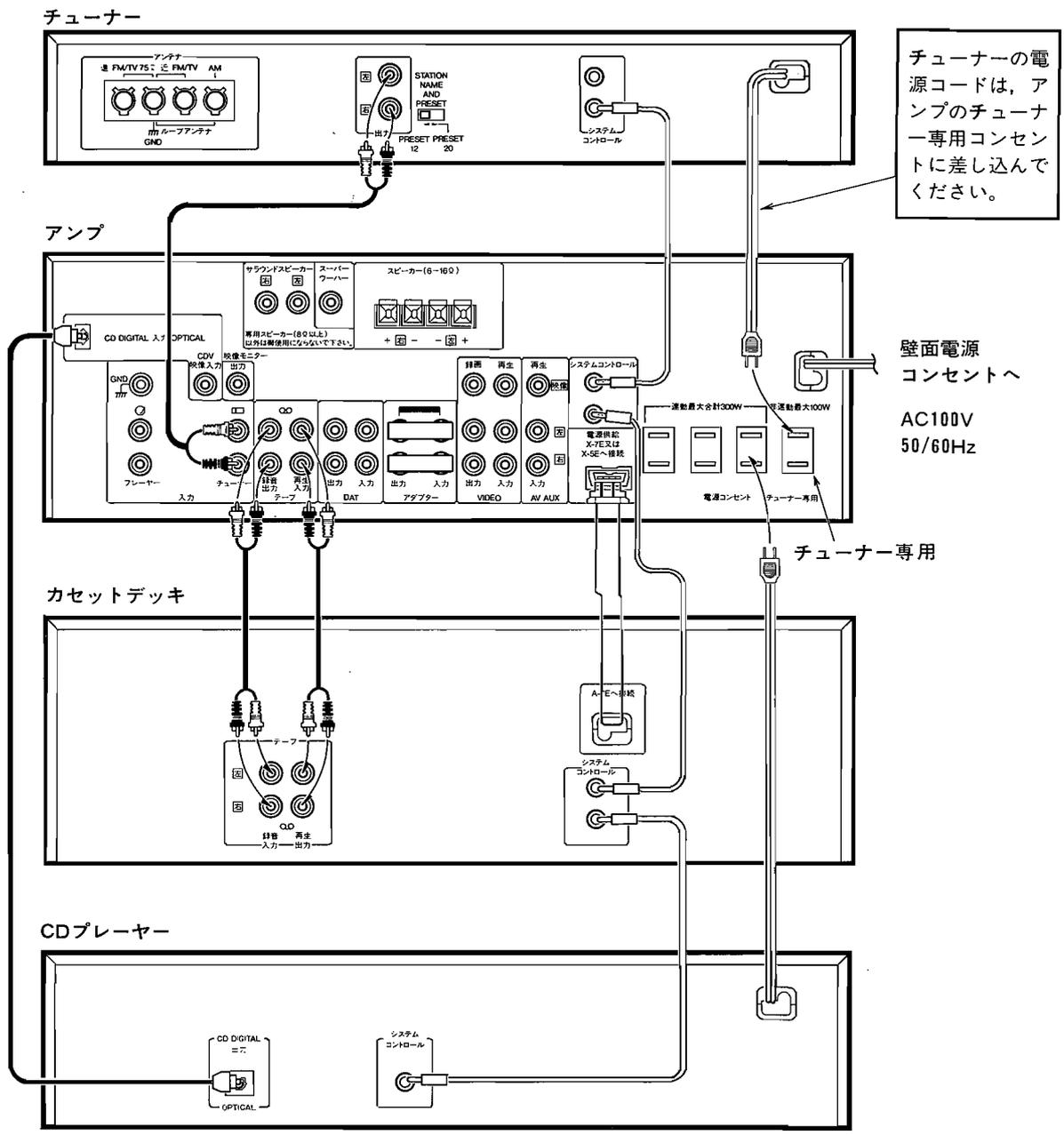
接続が完了するまで電源コードは差し込まないでください。

別売機種を追加したときの接続のしかたについては別紙添付の“接続のしかた”をごらんください。

基本システムの接続

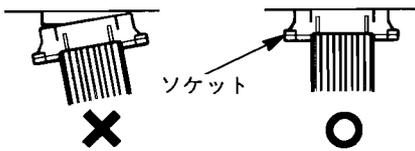
本システムを下図のように接続してください。

チューナーのアンテナ接続とアンプのスピーカー接続については“アンテナの接続”と“スピーカーコードの接続”をそれぞれごらんください。



ご注意:

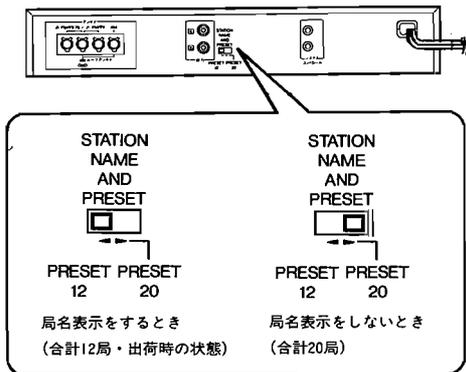
1. 全ての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出ない、雑音が発生するなどの障害が出る場合があります。
2. 背面の電源コンセントには、表示されている定格以上の接続をしないでください。
3. 積み重ねは、接続図通りに行ってください。
4. 全ての接続が終了した後に接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
5. 本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や妨害ノイズにより誤動作することがあります。(電源が入らない、入力切替ができない、など)。そのようなときは、電源コードを電源コンセントから一度抜いてからあらためて差し込んでください。



■ 4 平行コードの接続について

アンプとカセットデッキを接続する4平行接続コードはカチッと音がするまで平行に差し込んで、正しく接続してください。

- コードを抜くときはソケット部分をもってまっすぐ抜いてください。



■ チューナー背面の局名表示切換について

チューナーにあらかじめ記憶させておくことのできる放送局数は、放送局名表示をする、しないによって異なります。

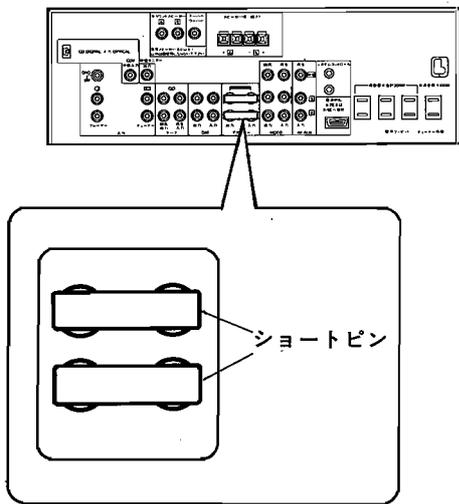
	放送局名表示をするとき	放送局名表示をしないとき
記憶可能局数	AM, FMまたはTVの 全バンド合計12局	AM, FMまたはTVの 全バンド合計20局
	A: 1~6の6局	A: 1~0の10局
	B: 1~6の6局	B: 1~0の10局

チューナー背面の放送局名表示切換

放送局名表示の有無の切り換えは、チューナー背面のSTATION NAME AND PRESETスイッチで行います。

ご注意:

1. このスイッチの操作は、チューナーの電源コードを抜いてから行ってください。
2. このスイッチを操作すると、それまでに記憶されていた内容は消去されます。



■ アンプ背面のアダプター端子について

アダプター端子を使用しないときはショートピンを差し込んでおいてください。ショートピンがないと音がでません。

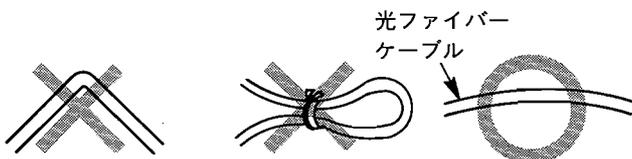
ご注意:

1. グラフィック イコライザーなどの機器を接続するとき以外は、ショートピンをアダプター端子から抜かないでください。
2. アダプター端子を使用する場合は、取りはずしたショートピンを絶対にほかの端子に差し込まないでください。他の端子に差し込むと故障の原因となります。保証書や取扱説明書と一緒に保管しておいてください。

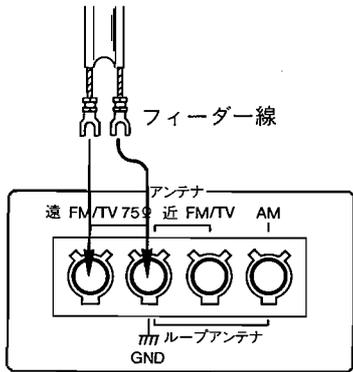
■ 光ファイバーケーブルの接続について

アンプとCDプレーヤーを接続する光ファイバーケーブル(CDプレーヤーに付属)はカチッと音がするまで平行に差し込んで、正しく接続してください。

- 光ファイバーケーブルは絶対に折りまげたり、たばねたりしないでください。
- ケーブルを抜くときはソケット部分をもってまっすぐ抜いてください。



アンテナの接続

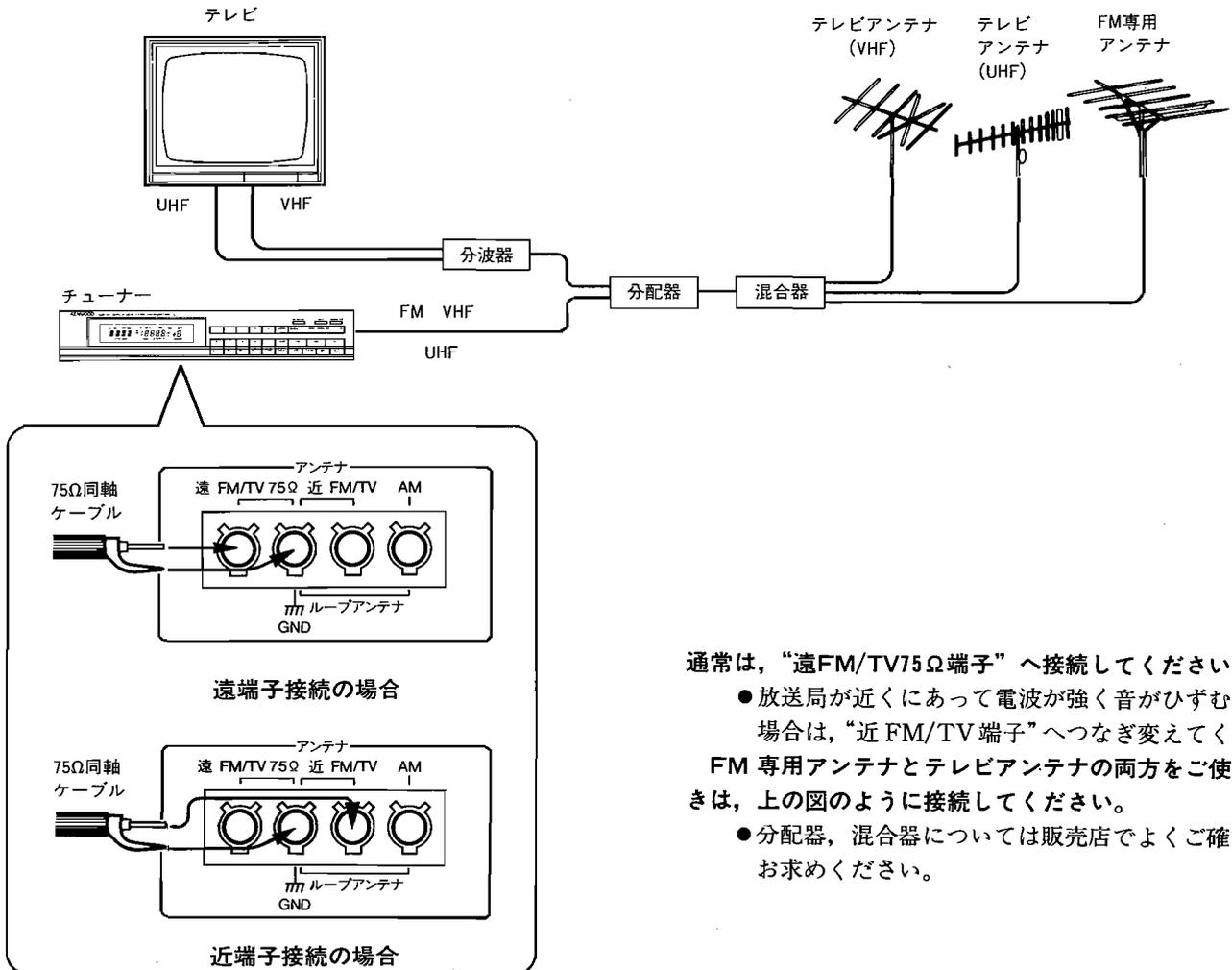


■室内アンテナの接続のしかた

都市部など放送局の送信アンテナから近く、木造の建物の中で電波の強い地域では、付属の室内アンテナが使えます。壁や天井などできるだけ高い所に固定します。

しかし、室内アンテナは、回りの状況の変化によって、アンテナ端子への入力も変化しやすく、安定した受信は期待できないことがありますので付属の室内アンテナは屋外アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

■テレビ(VHF, UHF)アンテナとFM専用アンテナ両方の接続のしかた

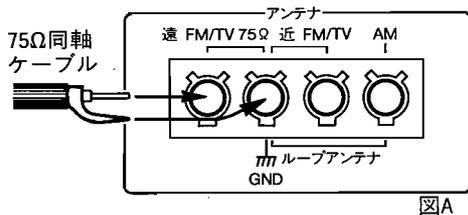


通常は、“遠FM/TV75Ω端子”へ接続してください。

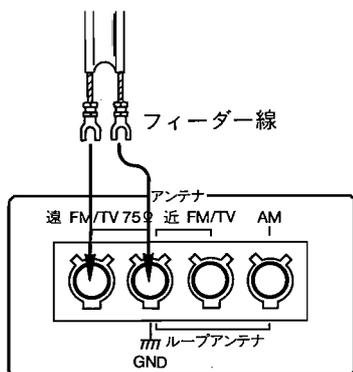
- 放送局が近くにあつて電波が強く音がひずむような場合は、“近FM/TV端子”へつなぎ変えてください。

FM専用アンテナとテレビアンテナの両方をご使用のときは、上の図のように接続してください。

- 分配器、混合器については販売店でよくご確認の上お求めください。



図A



図B

■テレビまたはFM専用アンテナの接続のしかた

テレビやFMの雑音の中で悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンより出る雑音)があります。この雑音を避けるため、図のようにアンテナを道路からできるだけ離れた所に立ててください。

また、送信アンテナからごく近い所でテレビやFM専用アンテナを立てますと、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、またはお近くのケンウッド営業所にご相談ください。

75Ωの同軸ケーブル(3C-2Vまたは5C-2V)で接続するときは、FM/TV75Ωアンテナ端子に接続します(図A)。

フィーダー線で接続するときは、FM/TV75Ωアンテナ端子に接続します(図B)。

ご注意：
フィーダー線と75Ω同軸ケーブルを同時に接続しないでください。

■AMアンテナの接続のしかた

AMループ室内アンテナ

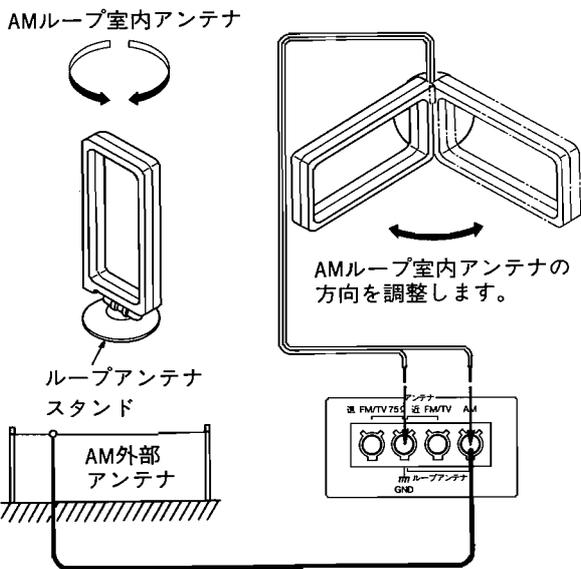
付属のAMループ室内アンテナを付属のループアンテナスタンドに差し込み棚などの安定した場所に置くかラックや壁に木ねじで固定してください。

良好な受信状態になるように、AMループ室内アンテナを左右に回して調整してください。

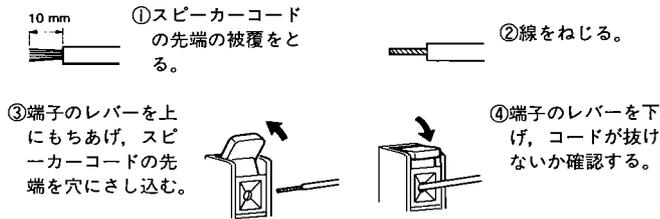
AM外部アンテナの接続

鉄筋住宅の場合などでAMループ室内アンテナを接続しても受信状態が悪いときは、AMアンテナ端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはってください。このとき必ずループ室内アンテナも接続したままにしておきます。

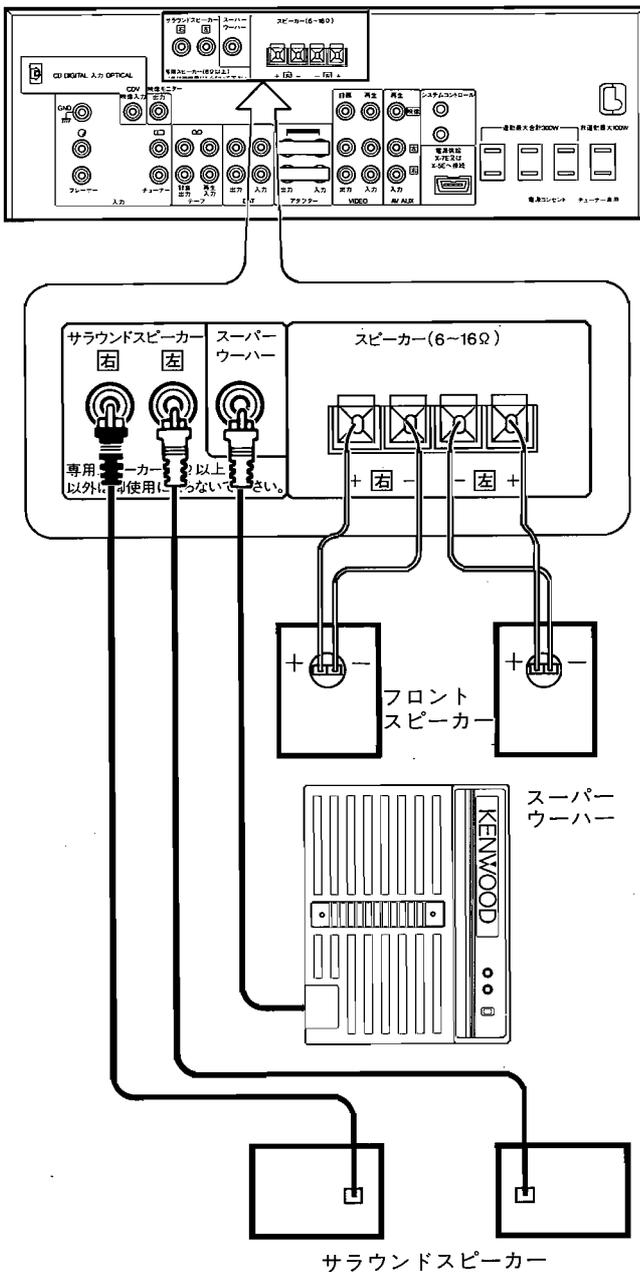
ご注意：
AMループ室内アンテナは、本システム、TV、スピーカーコード、電源コード等からできるだけ離してください。



スピーカーコードの接続



アンプ



■フロントスピーカーの接続のしかた

1. 左側スピーカーはアンプ背面の(左)スピーカー端子に、右側スピーカーは(右)スピーカー端子に接続します。
2. スピーカーコードの芯線が他の端子にふれないように左の図のように接続してください。

■サラウンドスピーカーの接続のしかた

1. サラウンドスピーカーは、サラウンドスピーカーに付属のピンプラグ付スピーカーコードを用いて接続します。
2. 左側サラウンドスピーカーはアンプ背面の(左)サラウンドスピーカー端子に、右側サラウンドスピーカーは(右)サラウンドスピーカー端子に接続します。
3. サラウンドスピーカーの接続については、サラウンドスピーカーシステムの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

■スーパーウーハーの接続のしかた

スーパーウーハーは、アンプ背面のスーパーウーハー端子に、スーパーウーハーに付属のピンプラグ付スピーカーコードを用いて接続します。

- スーパーウーハーの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

■スピーカーの防磁とテレビについて

1. このシステムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムです。設置のしかたによっては、色ムラを生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15分~30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーをさらに離してご使用ください。
2. 近くに磁石等磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

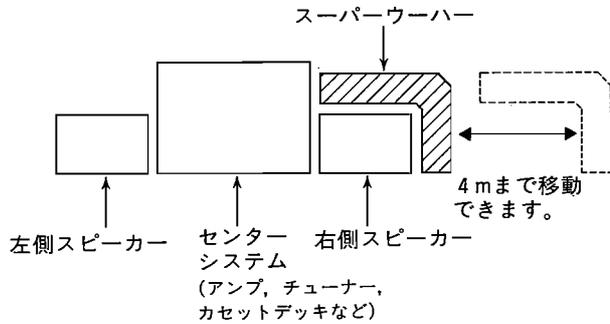
ご注意：

1. スピーカーコードの⊕と⊖は絶対にショートさせないでください。
2. 左右を逆にしたり、極性をまちがえて接続しますと楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音となります。正しく接続してください。

スーパーウーハーについて

別売のスーパーウーハーSW-77Eをロキシーシステムに接続されますと、低音を増強することができ、より臨場感のある音をお楽しみいただけます。

スーパーウーハーをご使用のときは、付属の取扱説明書を必ずお読みください。



■設置と接続について

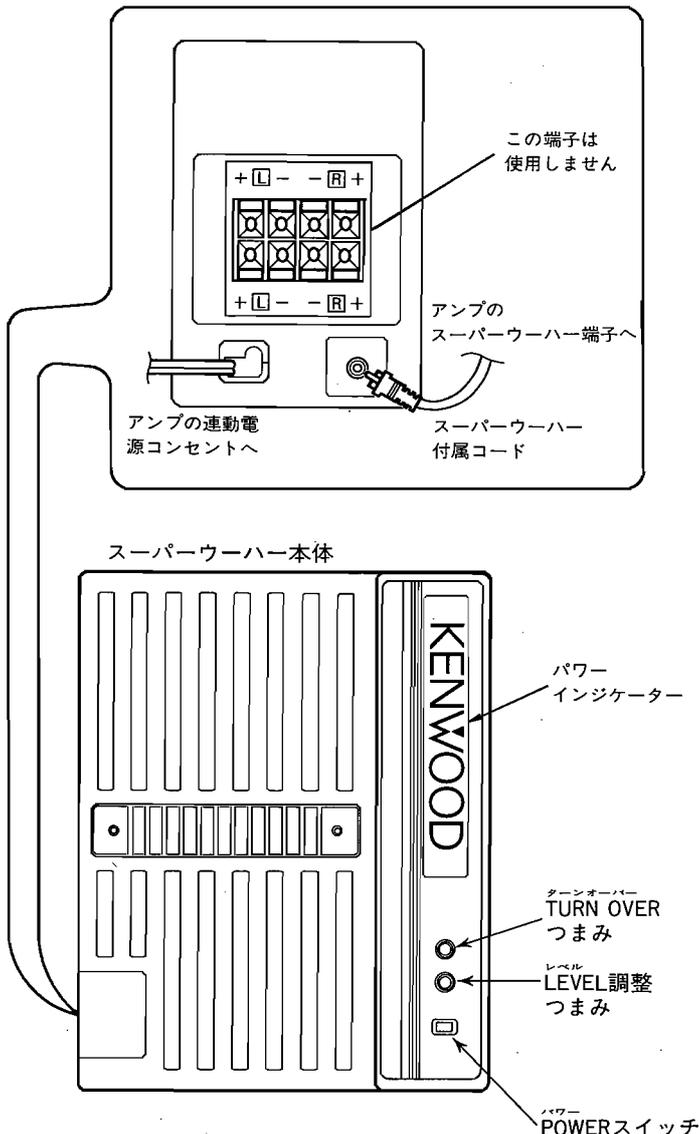
1. スーパーウーハーは左図のようにシステムの右側に設置します。付属のコードは4mの長さがあります。設置にさいしてはハウリングを考慮して設置してください。もし、ハウリングがおきましたら、すぐアンプのSURROUNDのスイッチを切ってから、スーパーウーハーの位置を再度調整するか、スーパーウーハーのLEVELつまみを下げてください。
*ハウリング：ブーンという音

2. アンプ背面のスーパーウーハー端子とスーパーウーハーのSYSTEM INPUT端子をスーパーウーハーに付属のコードで接続します。

ご注意：指定以外の接続をされると、アンプやスーパーウーハーを破損することがありますのでご注意ください。

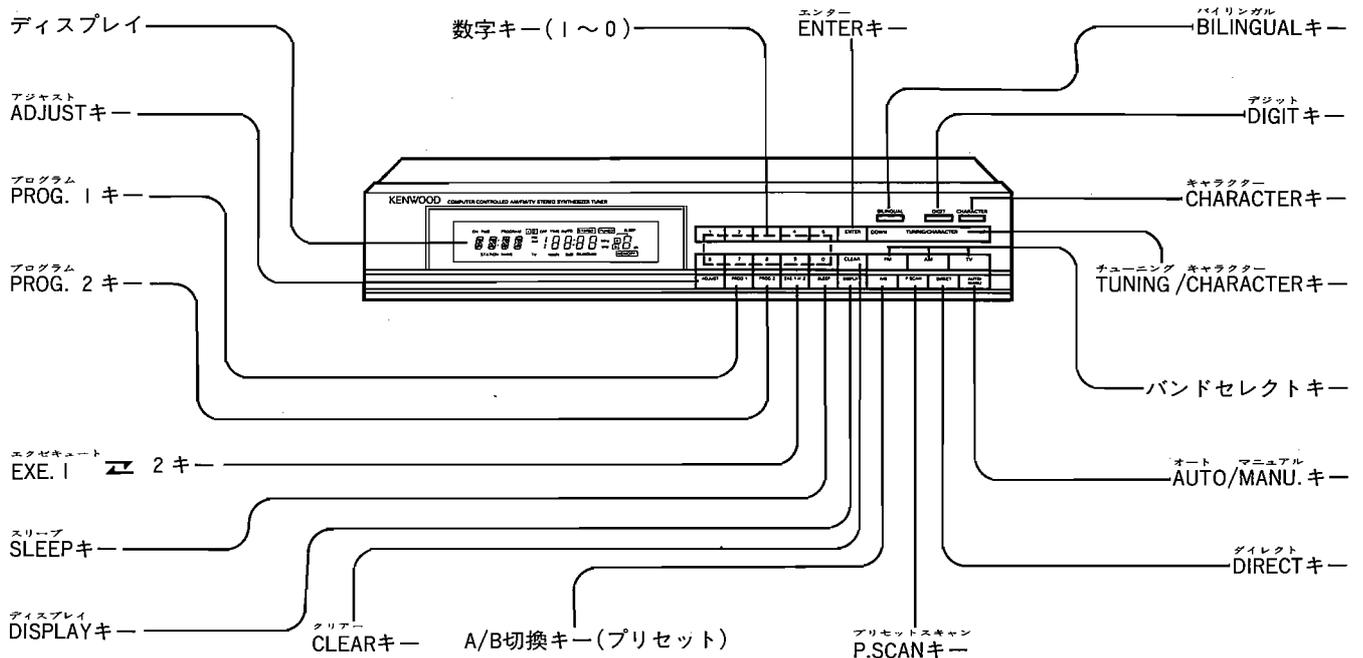
■操作について

1. スーパーウーハーの電源コードをアンプ背面の連動電源コンセントに接続し、スーパーウーハーのPOWERスイッチをONにしておきますと、アンプのPOWERスイッチと連動してON-OFFできます。ONのとき、パワーインジケーターが点灯します。
2. 低音の調整はTURN OVERつまみとLEVEL調整つまみで行います。

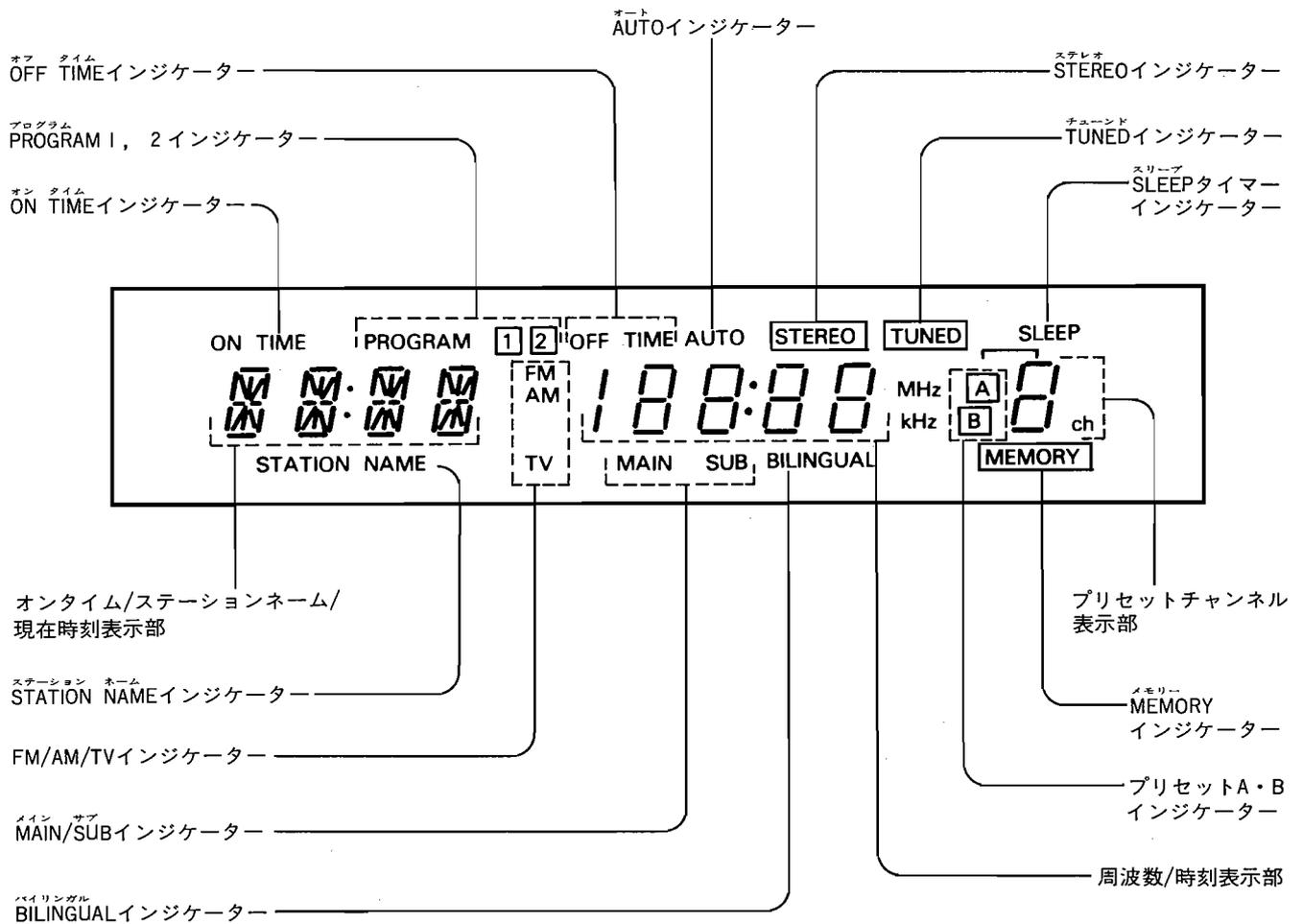


各部の名称

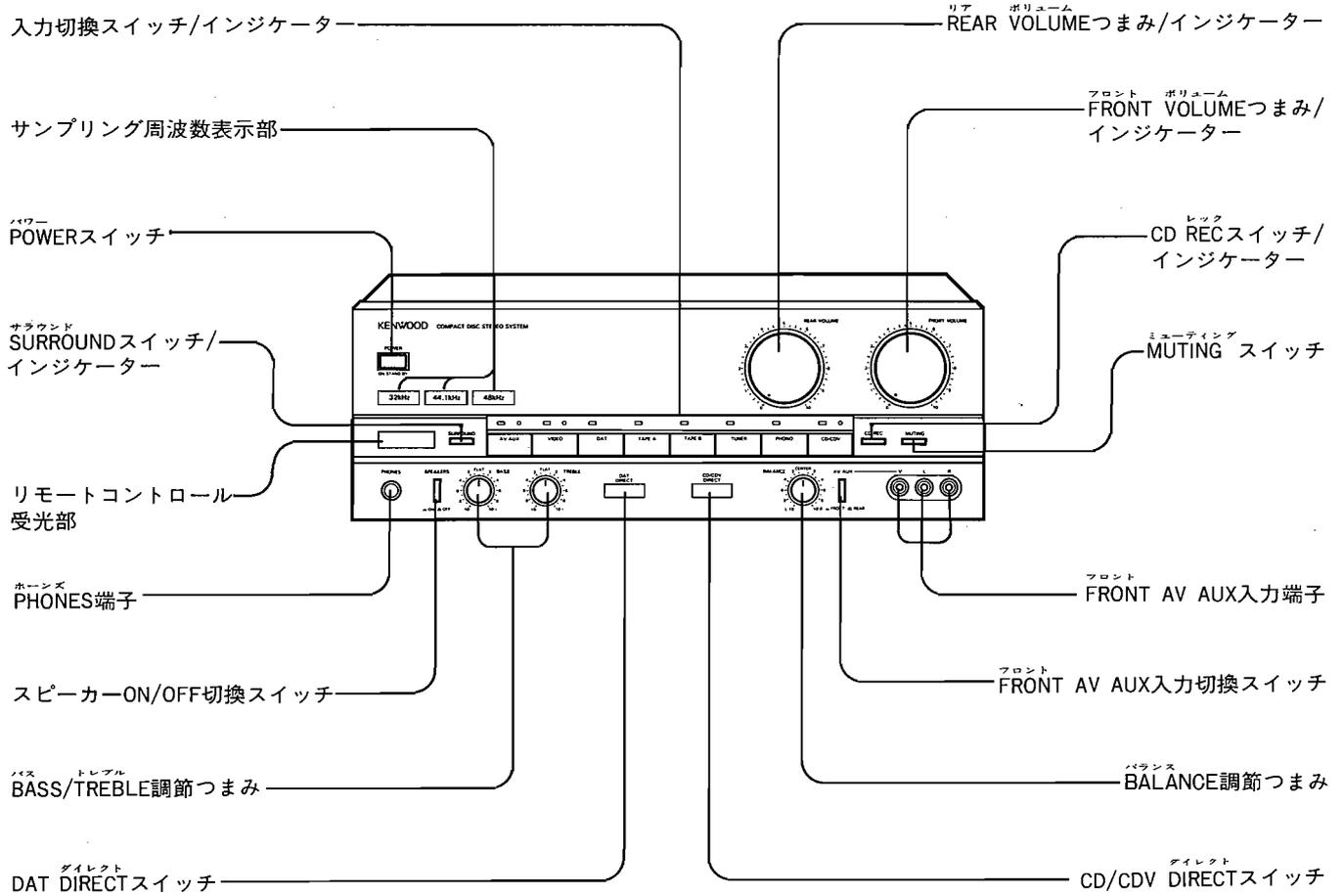
チューナー各部の名称



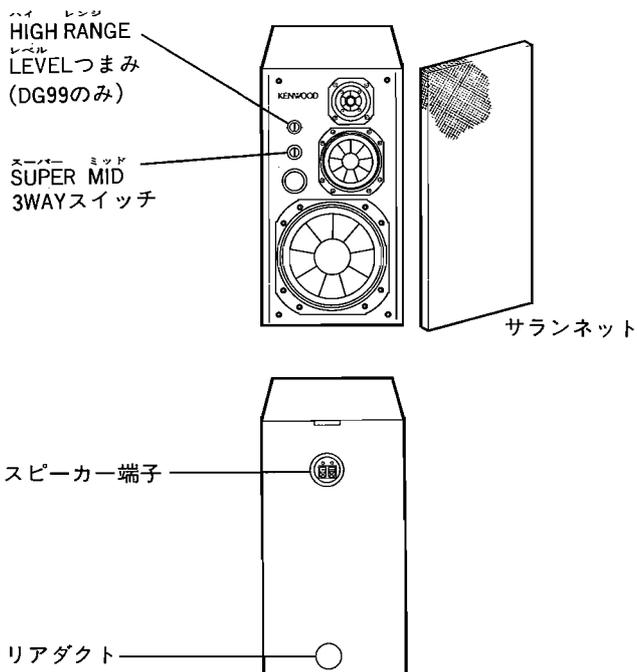
チューナーディスプレイ部の名称



アンプ各部の名称



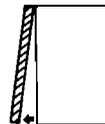
スピーカー各部の名称



サラネットの脱着

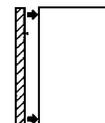
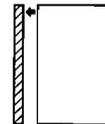
取りはずしかた

1. 下部隅を手前に引く

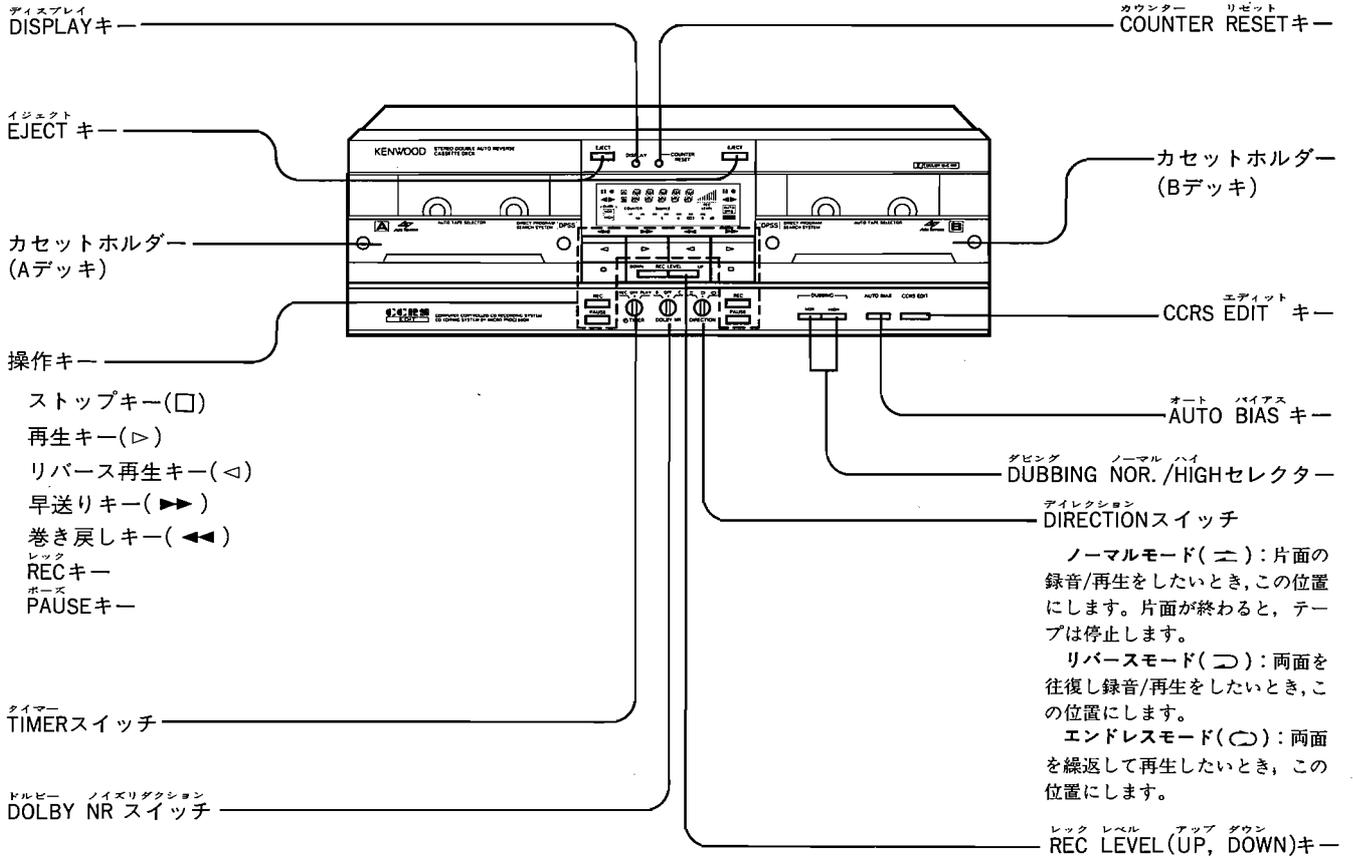


取り付けかた
四隅を押し込む

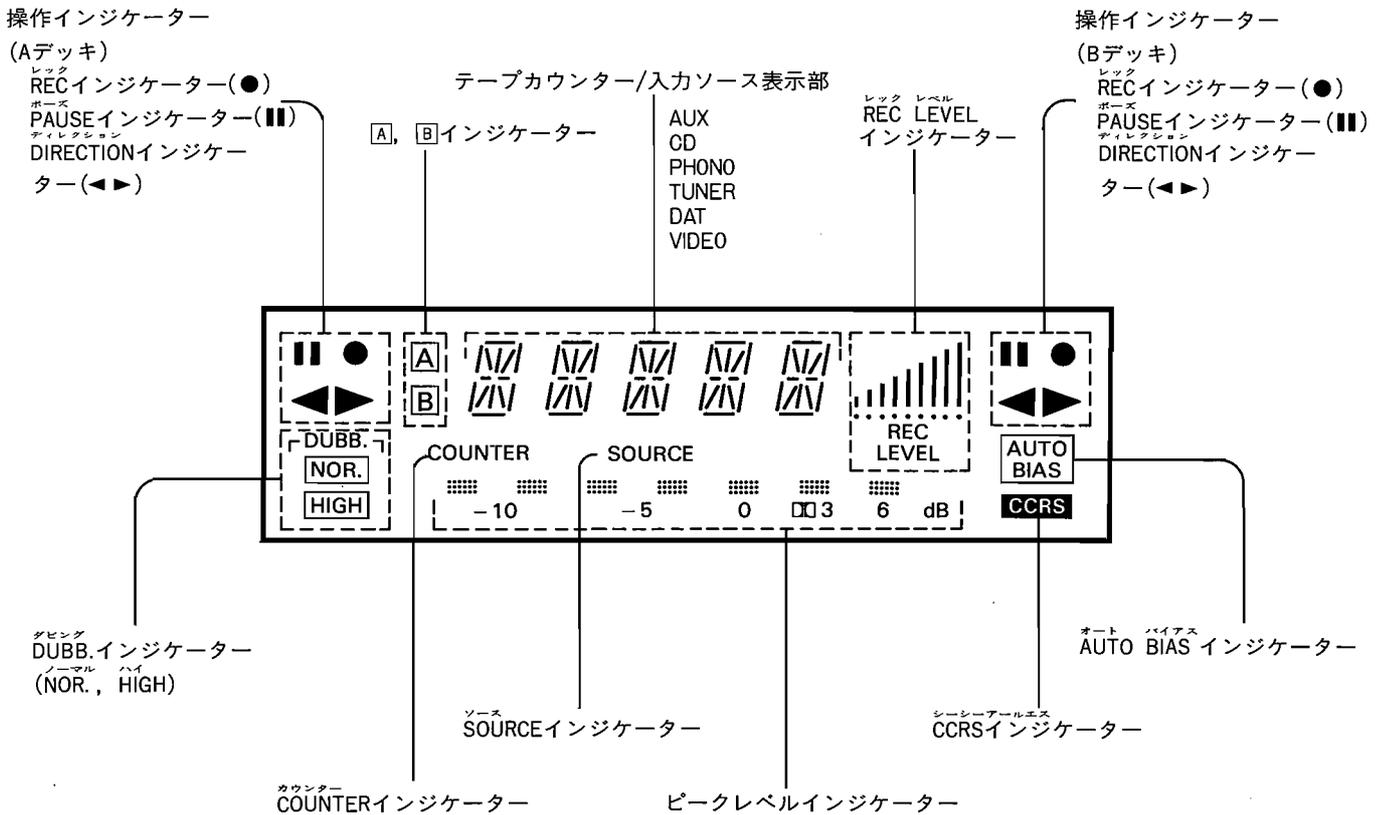
2. 上部隅を手前に引く



カセットデッキ各部の名称



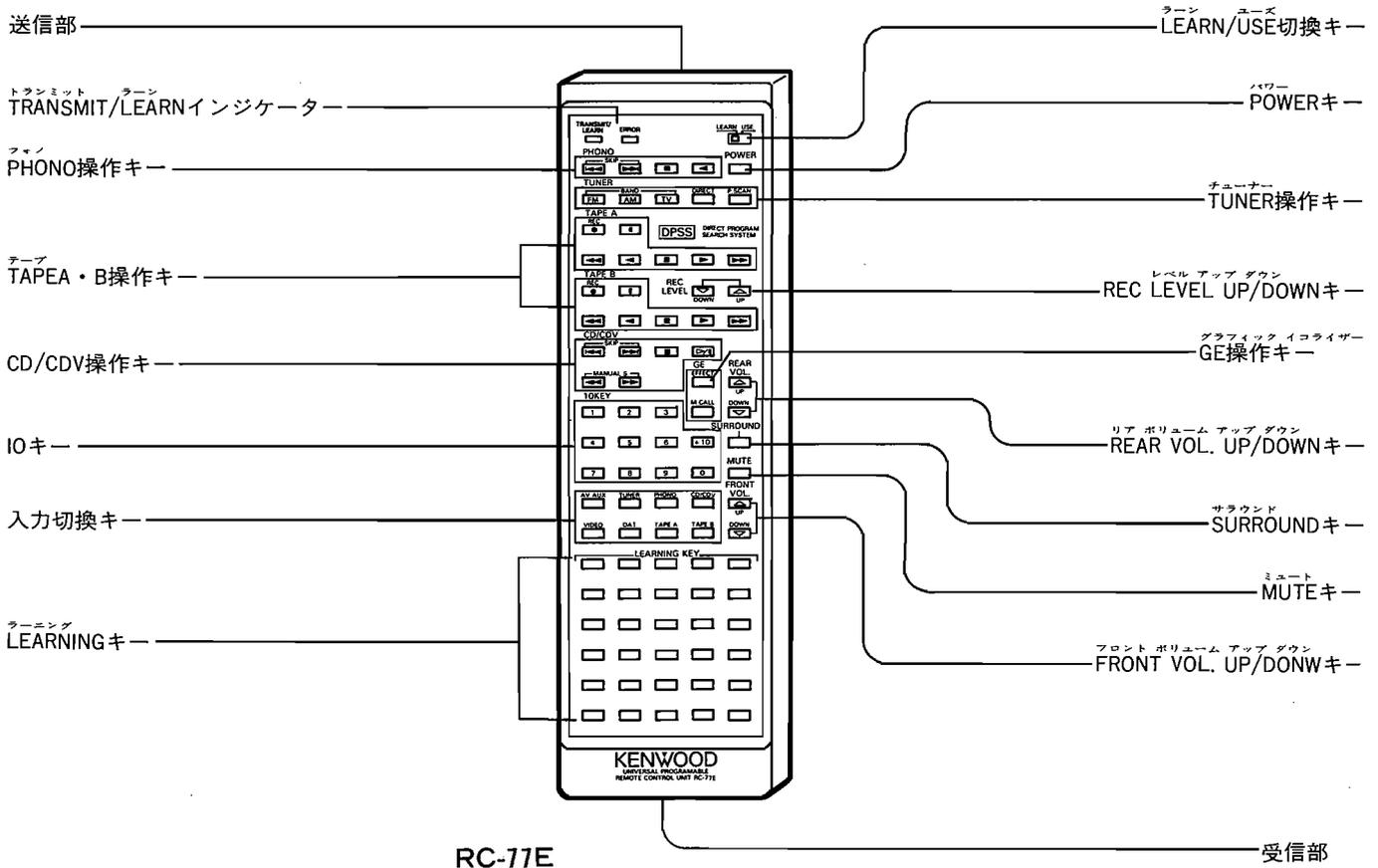
カセットデッキディスプレイ部の名称



リモートコントロールユニットについて

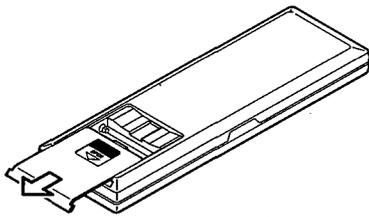
付属のリモートコントロールユニットは、本システムの各機器を操作できる機能に加えて本システムの別売機種や他のAV機器のリモートコントロールユニットの機能を記憶する機能を持っており、いままで種々のリモートコントロールユニットを使いわけていたものが一つのリモートコントロールユニットで操作することができます。

各部の名称 ……各操作キーは、本体の機能と同じです。

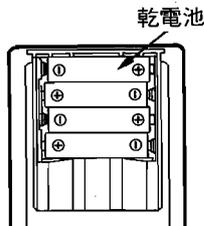


電池の入れかた

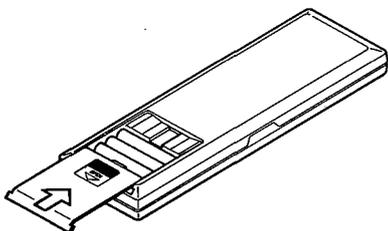
1



2



3

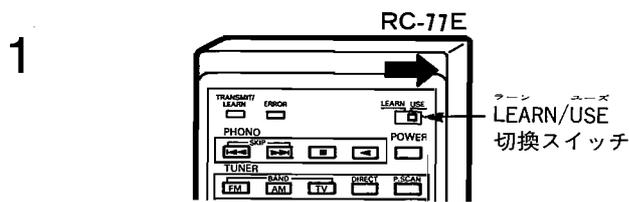


1. 表面のふたを軽く押さえながら、⇨ の方向にすべらせてはずします。
2. 極性(+,-)に注意して、図のように単4の乾電池を4個入れます。
3. ふたを閉じます。

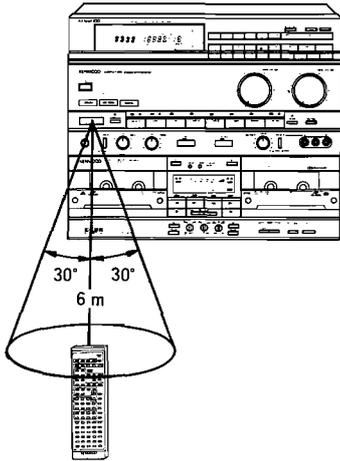
ご注意:

1. 電池を交換する場合、3分以上電池を入れずに放置しますとLEARNINGキーに記憶された内容が失われます。
2. 乾電池の寿命は、使用頻度によりますが、およそ6ヶ月程度です。操作のできる距離が短くなったり、動作しなくなったりしたときは、4個とも新しい乾電池と交換してください。
3. 付属の乾電池は、動作チェック用です。寿命が短いことがありますので、ご了承ください。
4. 消耗した電池を入れたままにしたり、新旧の電池を混用しないでください。記憶させた内容が失われたり、電池の腐食によりリモートコントロールユニットに損傷を与えたりすることがあります。

操作のしかた



2, 3

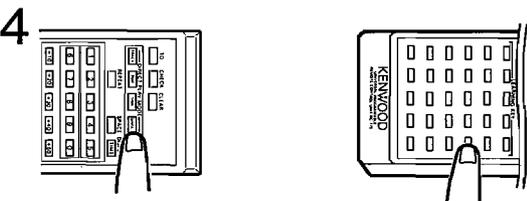
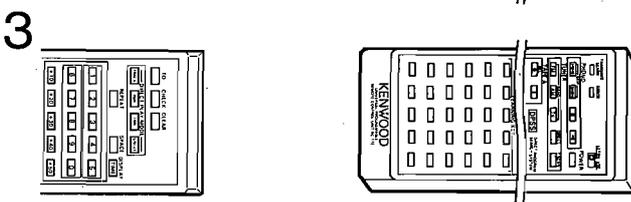
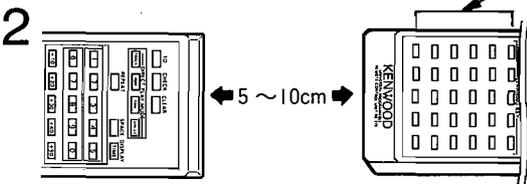
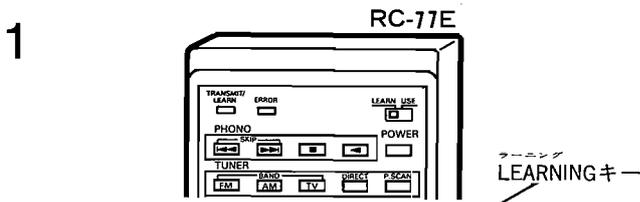


■通常の操作

1. LEARN/USE切換スイッチをUSE側にします。
2. 送信部をアンプの受光部に向けます。
3. ご希望の機能のキーを押します。

ご注意：

1. 複数の操作キーを続けて押すときは、次のキーを押すまで一秒程度の間をあけて確実に押してください。
2. リモートコントロールユニットでは、二つのキーを同時に押す操作（例えば、カセットデッキの巻き戻し再生など）はできません。



記憶させたい他機器
のリモートコントロールユニット

RC-77E

■LEARNINGキーに記憶させるには

1. LEARN/USE切換スイッチをLEARN側にします。
2. 記憶させたい他機器のリモートコントロールユニットの頭部(送信部)と付属のリモートコントロールユニットの受信部(KENWOODマーク側、底部)を図の様に向かい合わせます。
3. LEARNINGキーの記憶させたいキーを押します。
●LEARNインジケータが点滅をはじめます。
4. LEARNINGキーを押してから7秒以内に、相手リモートコントロールユニットの記憶させたい機能のキーを押し続けます。
●LEARNインジケータとERRORインジケータが点灯し、その後両方のインジケータが消灯します。記憶完了なら、LEARNインジケータが再度点灯し、その後消灯します。
●ERRORインジケータが点灯した場合は、再度手順3からやり直してください。
5. LEARNインジケータが完全に消灯したら、相手のリモートコントロールユニット上のキーから手を離してください。
●続けて他のキーを記憶させるときは3. ~ 5. の操作を繰り返してください。

ご注意：

特殊な変調信号形のリモコンコードは、登録できないことがあります。

■^{ラーニング}LEARNINGキーに記憶した内容を変更するには

1. ^{ラーニング}LEARN/^{ユーズ}USE切換スイッチを^{ラーニング}LEARN側にします。
2. 記憶させたい他機器のリモートコントロールユニットの頭部（送信部）と付属のリモートコントロールユニットの受信部（KENWOODマーク側、底部）を図の様に向かい合わせます。
3. 記憶済の^{ラーニング}LEARNINGキーを押します。
 - ^{ラーニング}LEARNインジケーターが点滅、^{エラー}ERRORインジケーターが点灯します。
4. “^{ラーニング}LEARNINGキーに記憶させるには”の4.～5. の操作を行います。

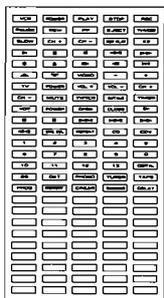
■付属の書き込みシートについて

付属のリモートコントロールユニットには、機能表示シールと無記入シールが添付されています。

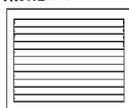
^{ラーニング}LEARNINGキーに記憶させた機能の表示は機能表示シールの中に該当するものがあれば、それを台紙からはがしてそのままご使用ください。

記憶させた機能に該当する機能表示シールがないときは、無記入シールに油性のサインペンか鉛筆などで、目的の機能表示を書き込んでご利用ください。

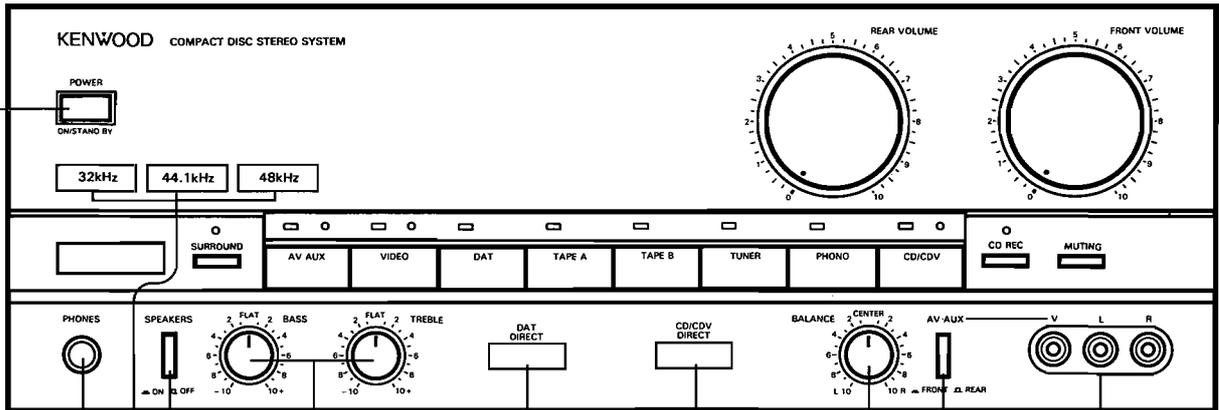
機能表示シール



無記入シール



アンプの操作のしかた



POWER スイッチ
 PHONES端子
 サンプル周波数表示部
 SPEAKERS ON/OFF 切換スイッチ
 BASS, TREBLE調節つまみ
 DAT DIRECTスイッチ
 CD/CDV DIRECTスイッチ
 BALANCE調節つまみ
 AV AUX切換スイッチ
 フロント AV AUX入力端子

■音の出しかた

1. POWER スイッチをONにします。
2. SPEAKERS ON/OFF 切換スイッチをONにします。
3. おききになりたい入力ソースにあわせて入力切換スイッチを押します。
4. おききになる入力ソースを再生状態にします。
5. FRONT VOLUME, REAR VOLUME 調節つまみで音量を調節します。
6. お好みにあわせて BASS, TREBLE 調節つまみで音質を調節します。

■各スイッチの働き

POWER スイッチ

このスイッチで、システム全体の電源ONとSTAND BY (タイマー及びメモリー機能を除いてOFFの状態)の切り換えができます。

PHONES 端子

ステレオヘッドホンできくときこの端子に接続します。SPEAKERS ON/OFF 切換スイッチをOFFにすれば、ヘッドホンだけできくことができます。

ご注意：

ヘッドホンの抜き差しは、音量を絞ってから行ってください。

サンプリング周波数表示部

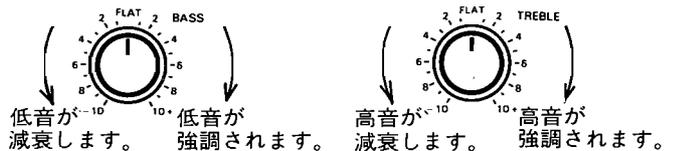
デジタル信号の再生中のサンプリング(標本化) 周波数 32kHz, 44.1kHz および 48kHz を示します。通常は、44.1kHz のインジケータが点灯しています。

SPEAKERS ON/OFF 切換スイッチ

スピーカーの音をON/OFFするスイッチです。

BASS, TREBLE 調節つまみ

リスニングルームやスピーカーの音響特性を補正するときに使います。



DAT DIRECT スイッチ

入力切換スイッチがDATの位置になっているときこのスイッチをON状態(インジケータが点灯)にすると、DAT端子に入力された信号がすべての入力端子に対し優先的に選ばれ高品位な音質が楽しめます。

ON状態ではBASS, TREBLEとADAPTOR端子に接続したグラフィックイコライザーなどは働きません。

OFFにするときは、再度このスイッチを押してください。

CD/CDV DIRECT スイッチ

入力切換スイッチがCD/CDVの位置になっているときこのスイッチをON状態(インジケータが点灯)にすると、CD端子に入力された信号が選ばれ高品位な音質が楽しめます。

ON状態ではBASS TREBLEとADAPTOR端子に接続したグラフィックイコライザーなどは働きません。

OFFにするときは、再度このスイッチを押してください。

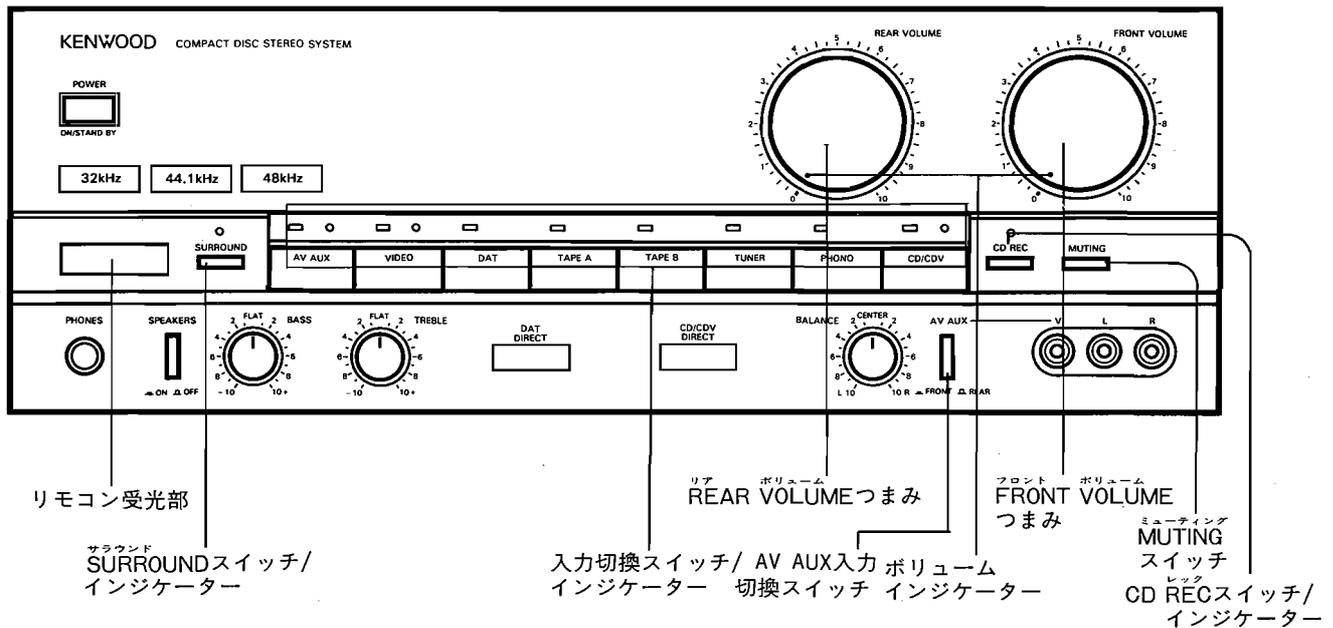
BALANCE 調節つまみ

スピーカーやステレオヘッドホンの左右の音量バランスを調節するつまみです。左へ回すと右側の音が小さくなり、右へ回すと左側の音が小さくなります。

フロント AV AUX 入力端子

V：映像入力用です。

L, R：音声入力用です。



AV AUX入力切換スイッチ

フロントAV AUX入力端子に接続した機器を操作したいときはFRONT(≡)の位置にします。背面のAUX端子に接続した機器を操作したいときは、REAR(□)の位置にしてください。

サラウンド SURROUNDスイッチ/インジケータ

別売のサラウンドスピーカーを接続したとき、このスイッチをONにすると音場拡大効果が得られます。サラウンド機能により臨場感のあるライブサウンドが楽しめます。また、このスイッチのON/OFFでスーパーウーハーのON/OFFもできます。

入力切換スイッチ/インジケータ

インジケータの□は音声出力、インジケータの○は映像出力を表示し、それぞれ独立して選択することができます。

- AV AUX : 補助入力端子に接続したプログラムソースをきくときと映像をみるときに押します。
- ビデオ VIDEO : VIDEOの音声をきくときと映像をみるときに押します。
- DAT : DATデッキをきくときに押します。
- テープ TAPE A : カセットデッキのAデッキをきくときに押します。
- テープ TAPE B : カセットデッキのBデッキをきくときに押します。
- チューナー TUNER : チューナーをきくときに押します。
- プレーヤー PHONO : プレーヤーをきくときに押します。
- CD/CDV : CDプレーヤーをきくときに押します。

ご注意:

VIDEOに録音するときは、先にAV AUXスイッチを押してからご希望の入力切換スイッチを押してください。

フロント FRONT VOLUMEつまみ

フロントスピーカー、スーパーウーハーとヘッドホンの音量調節つまみです。左右チャンネルの音量を同時に増減します。

リア REAR VOLUMEつまみ

サラウンドスピーカーの音量調節つまみです。

ボリューム位置インジケータ

ミュート中はインジケータが点滅します。リモートコントロールユニットで音量を調節中にも点滅します。

ミュート MUTINGスイッチ

このスイッチを押すと瞬時に音を消すことができます。再度押すと、もとの音量に戻ります。

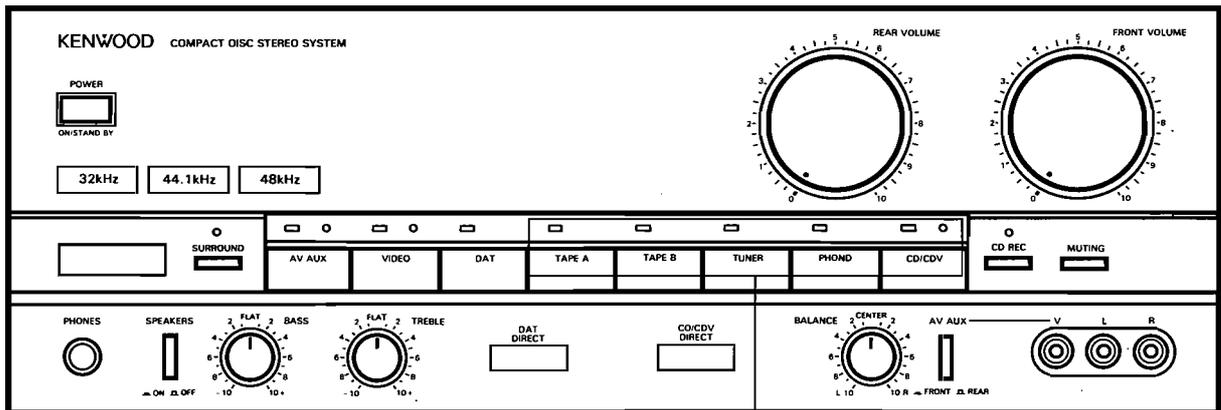
リモートコントロールユニットで音量を操作したときは自動的にミュートは解除します。

CD RECスイッチ/インジケータ

このスイッチを押すと入力切換スイッチの位置と無関係にCDをテープに録音することができます。

リモコン受光部

付属のリモートコントロールユニットを操作するときは、この受光部に向けてください。



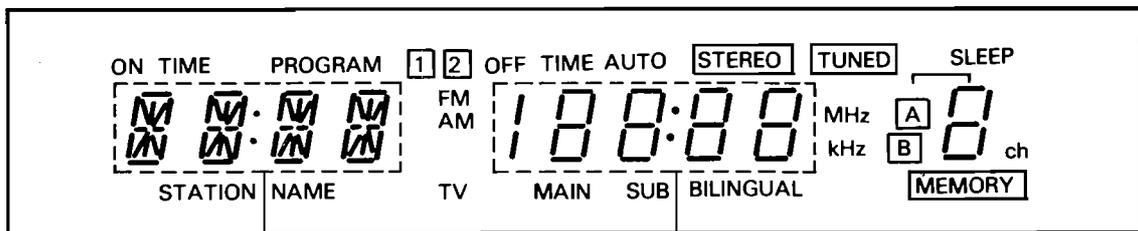
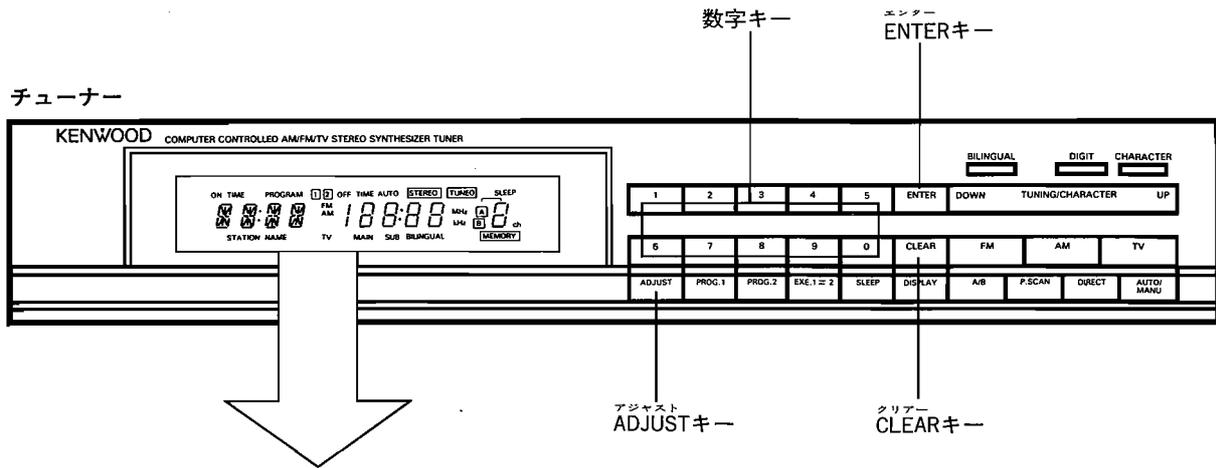
入力切替スイッチ/インジケータ
テープ (TAPE A, テープ TAPE B, チューナー TUNER, フォノ PHONO, CD/CDV)

■ イージーオペレーション

テープ (TAPE A, テープ TAPE B, チューナー TUNER, フォノ PHONO, CD/CDV)

1. アンプの入力切替スイッチを押すことで選ばれた機器は、自動的に演奏を開始します。
2. それぞれの機器の操作キーで演奏を開始したとき、アンプの入力切替スイッチは自動的に切り換り、インジケータが点灯します。

チューナーの時刻あわせについて



現時刻表示
オン時刻表示
放送局名表示

周波数表示
現時刻表示
オフ時刻表示
スリープ残時刻表示

例) 午前 9 時 5 分の場合

0, 9, 0, 5 の順に入力します。

09:05

午後 4 時 50 分の場合

1, 6, 5, 0 の順に入力します。

16:50

■時刻あわせのしかた

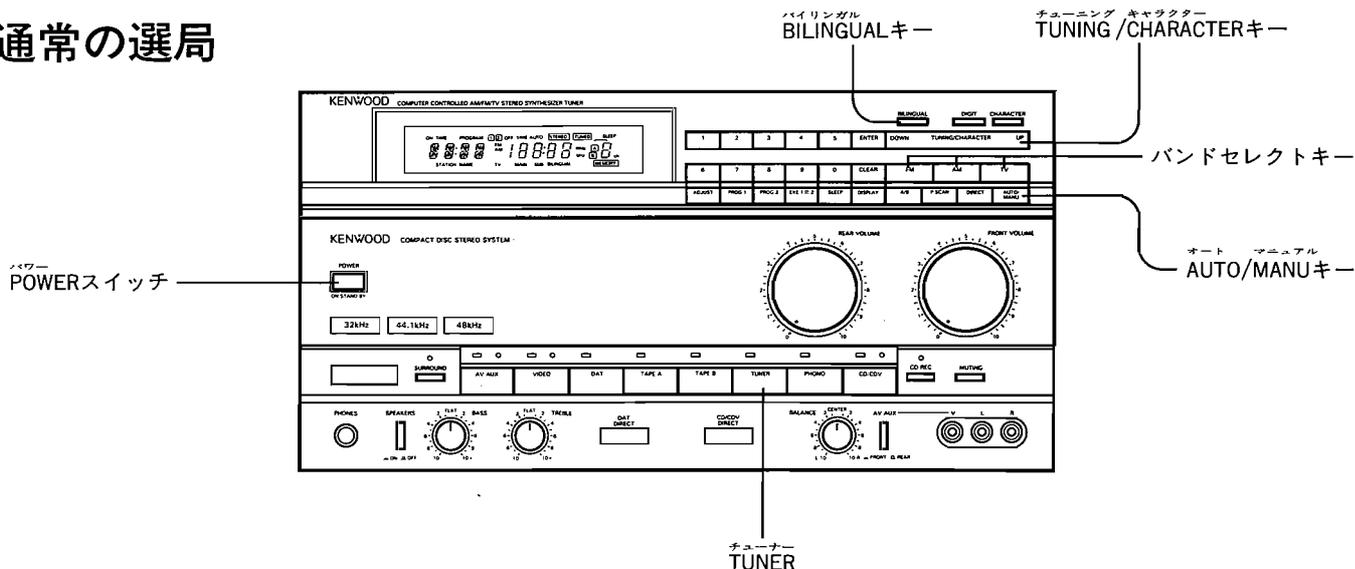
1. アンプのPOWERスイッチがOFFの状態^{アジャスト}でADJUSTキーを押します。
2. ディスプレイを見ながら数字キー(1~0)で時間, 分を入力します。
● 入力を間違えたときは, CLEARキーを押して, 2. からやりなおします。
3. ENTERキーを押します。
● 1. と 2. で時刻をあわせておき, ラジオの時報などに合わせてENTERキーを押すと正確な時刻あわせができます。

ご注意:

1. 20局プリセットを選んでいるときは時計表示部が左側に表示されますが, 時刻あわせは同じ手順で行います。
2. 時刻あわせ終了後, 停電またはコンセントを抜いた場合, 時刻表示は点滅します。このときは再度時刻あわせをしてください。

放送をきくとき

通常の選局



■オート選局のしかた

1. アンプのPOWERスイッチを押して電源をいれます。
2. アンプの入力切換スイッチのTUNERを押します。
3. チューナーのバンドセレクトキーのFM, AM, TVのいずれかを押します。
4. チューナーのAUTO/MANU.キーを押してAUTOインジケータを点灯させます。
 - 押すごとにAUTOとMANU.が切り換わります。
5. チューナーのTUNING/CHARACTERキーで選局します。
 - 右側を押すと周波数があがり、左側を押すとさがります。一度押すごとに、押した方向の最初の局を受信して止まります。

ご注意：

1. FMまたはAM放送を受信中ピーというノイズがきこえたり、また、放送局を選局しているとき、放送局のない周波数でTUNEDインジケータが点灯するような場合は、TV、CDプレーヤーなどの電源をOFFにするとなおることがあります。
2. AM放送を受信中、ノイズが多く、ききづらいときは付属のアンテナをTVやCDプレーヤーからできるだけ離れた壁などに取り付けてご使用ください。
3. チューナーが動作中にTVにビート(縞)など妨害を与える場合は、TVから本システムを離して、ご使用ください。また、TVと本システムのTV音声受信チャンネルは同一チャンネルでご使用ください。チャンネルが異なるビート(縞)の発生の原因となります。

■マニュアル選局のしかた

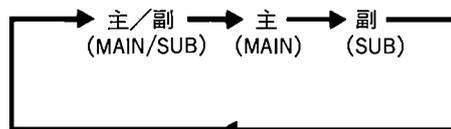
電波の弱い局は左記の方法では受信できないことがあります。そのようなときは、AUTO/MANU.キーを押して、AUTOインジケータを消灯させマニュアル選局をします。

- AUTOインジケータが消灯しているとき、TUNING/CHARACTERキーを押すごとに1ステップずつ周波数が上下します。ききたい局の周波数にあわせてください。
- マニュアル選局時、TV及びFM放送は強制モノラルになります。

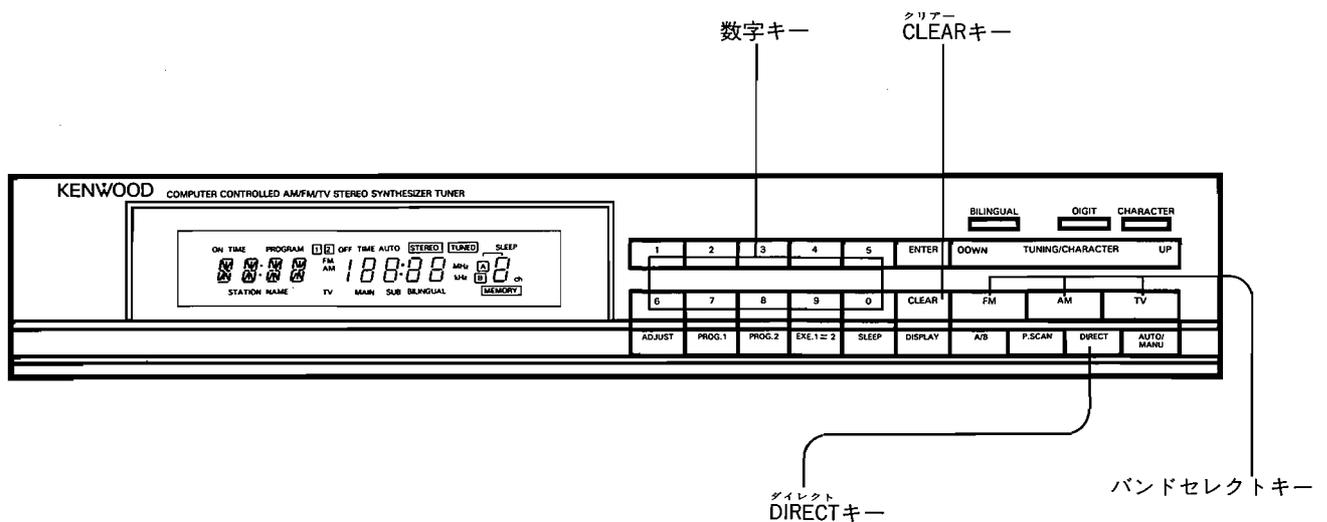
TVの2カ国語放送を受信するとき

2カ国語放送を受信するとBILINGUALインジケータが点灯します。主音声と副音声の切り換えはBILINGUALキーで行います。

- このチューナーは音声のみ出力します。
- このキーは押すごとに



と切り換わります。



■ダイレクト選局のしかた

数字キーにより周波数(またはテレビのチャンネル)を直接入力して選局する機能です。

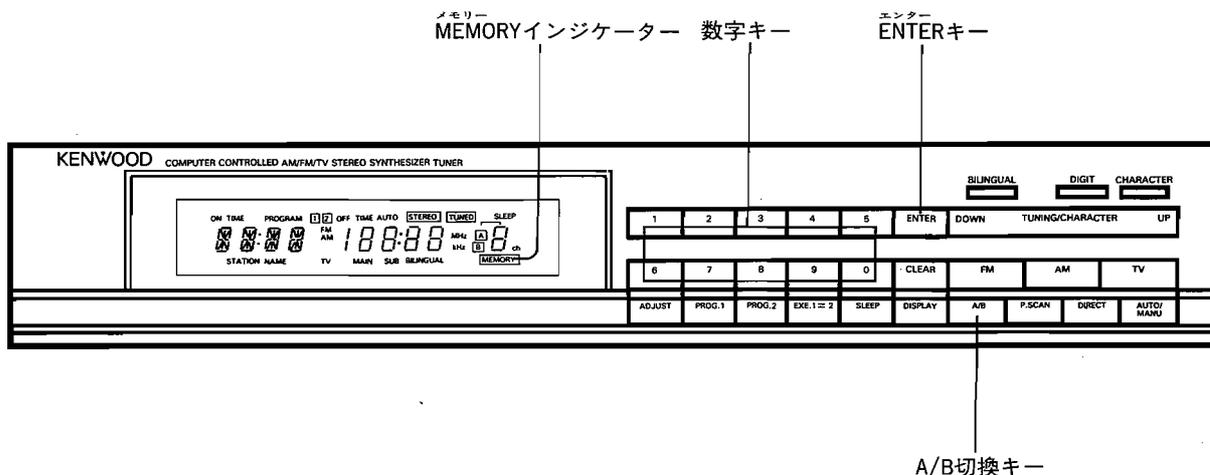
1. ^{ディスプレイ} DISPLAYキーを押して表示部を周波数表示にします。(すでに周波数表示になっている場合は不要です。)
2. アンプの入力切換スイッチの^{チューナー} TUNERキーを押します。
3. チューナーのバンドセレクトキーのFM, AM, TVのいずれかを押します。
4. チューナーの^{ダイレクト} DIRECTキーを押します。
5. 入力例にならって数字キーで入力します。
●入力をまちがえたときはCLEARキーを押してはじめからやりなおします。

数字キーの入力例

FM 82.5MHz..... 8 → 2 → 5
 AM 810kHz 8 → 1 → 0
 AM 1242kHz 1 → 2 → 4 → 2
 TV 8チャンネル..... 0 → 8
 TV 12チャンネル..... 1 → 2

●TVの場合は周波数表示がチャンネル表示になります。

プリセット選局



チューナー背面の放送局名表示切り換え

放送局名表示の有無の切り換えは、チューナー背面の STATION NAME AND PRESETスイッチで行います。

	放送局名表示をするとき	放送局名表示をしないとき
記憶可能局数	FM, AMまたはTVの 全バンド合計12局	FM, AMまたはTVの 全バンド合計20局
	A: 1-6の6局 B: 1-6の6局	A: 1-0の10局 B: 1-0の10局

STATION
NAME
AND
PRESET



PRESET PRESET
12 20

局名表示をするとき
(合計12局・出荷時の状態)

STATION
NAME
AND
PRESET



PRESET PRESET
12 20

局名表示をしないとき
(合計20局)

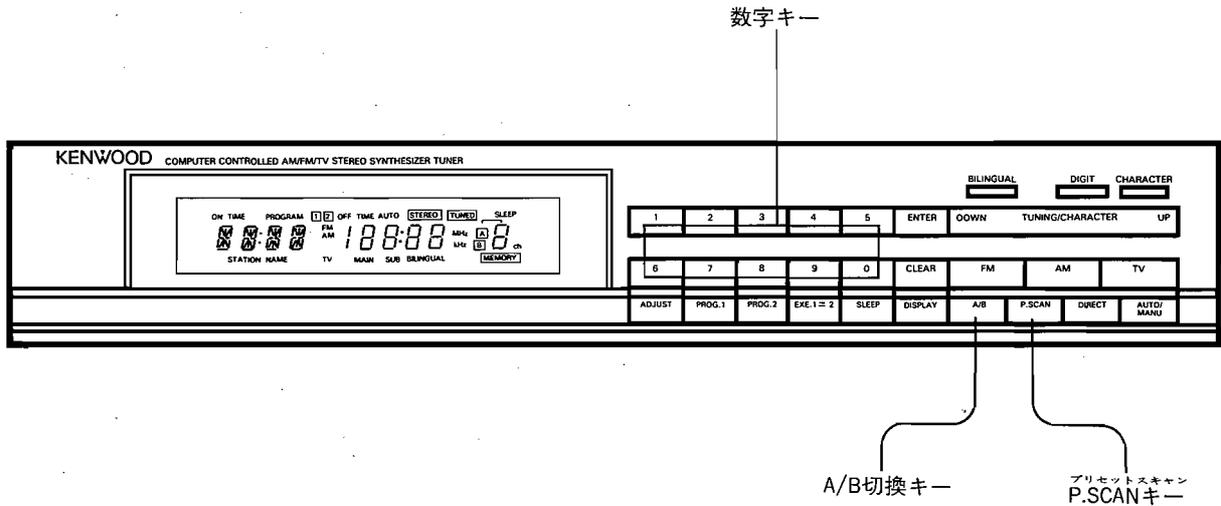
■放送局をプリセットするには

あらかじめ放送局名表示の有無を左記の STATION NAME AND PRESETスイッチで設定しておきます。

- オート、マニュアルまたはダイレクト選局でプリセットしたい局を受信します。
- ENTERキーを押します。
●MEMORYインジケータが点灯します。
- A/B切換キーでA, Bを選びます。
- 5秒以内にプリセットしたい数字キー(局名表示ありのとき: 1-6, 局名表示なしのとき: 1-0)を押します。
●MEMORYインジケータが消灯し、プリセットした番号を表示します。
- 同様にして他の局をプリセットします。

ご注意:

すでにプリセットされているキーに再びプリセットすると、前に記憶した放送局が消去され、新しくプリセットした放送局が記憶されます。



■プリセット選局のしかた

1. アンプのPOWERスイッチを押して電源を入れます。
2. アンプの入力切換スイッチのTUNERを押します。
3. チューナーのA/B切換キーでA, Bを選びます。
●省略すると表示されている方が選ばれます。
4. ききたい放送局のプリセット番号の数字キーを押します。

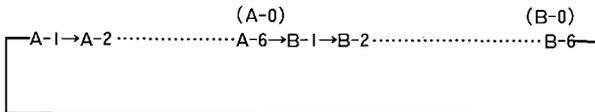
ラストチャンネルメモリー

チューナーのバンドセレクトキーを切り換えたとき、または、アンプの入力切換スイッチをほかからTUNERに切り換えたときに、FM, AM, TVのそれぞれ最後にきいていた放送局を受信します。

■プリセットスキャンのしかた

数字キーにプリセット(メモリー)された放送局を5秒間ずつ順次受信してきくことができます。

1. P. SCANキーを押します。
●プリセットされている周波数を5秒間ずつ受信し、局がなければ次のプリセットチャンネルに移動します。また、プリセットチャンネルを受信中であれば次のチャンネルから、そうでなければ、A-1チャンネルから始まります。(下図参照)



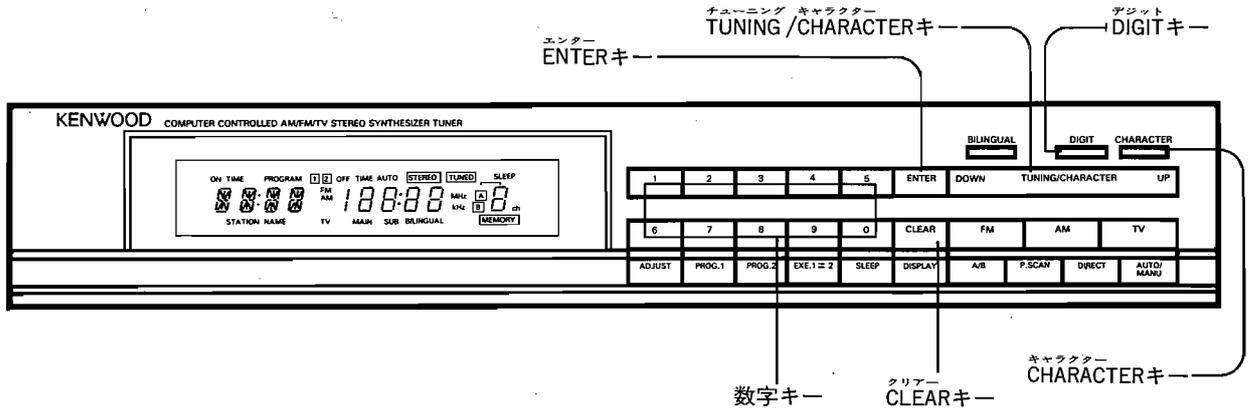
()内は局名表示なしのとき。

2. プリセットスキャンをとめたいときは再度P. SCANキーを押します。

ご注意:

1. STATION NAME AND PRESETスイッチの操作は、チューナーの電源コードを抜いてから行ってください。
2. 一度プリセットしたあとにSTATION NAME AND PRESETスイッチを操作すると、プリセットした内容が消去されます。
3. 電源コードを抜いたときは、三日間程度でプリセットした内容が失われますのでご注意ください。

放送局名表示



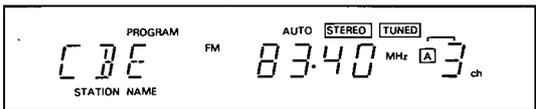
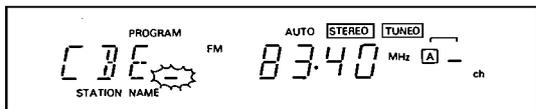
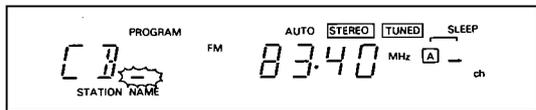
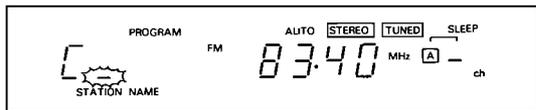
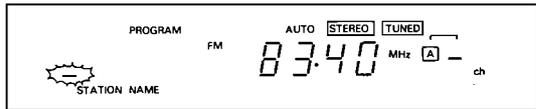
チューニング キャラクター
TUNING/CHARACTERキーによる表示文字は、
押すごとに
→A B C.....Z.....0 1 2 3.....9
と表示文字が変わります。

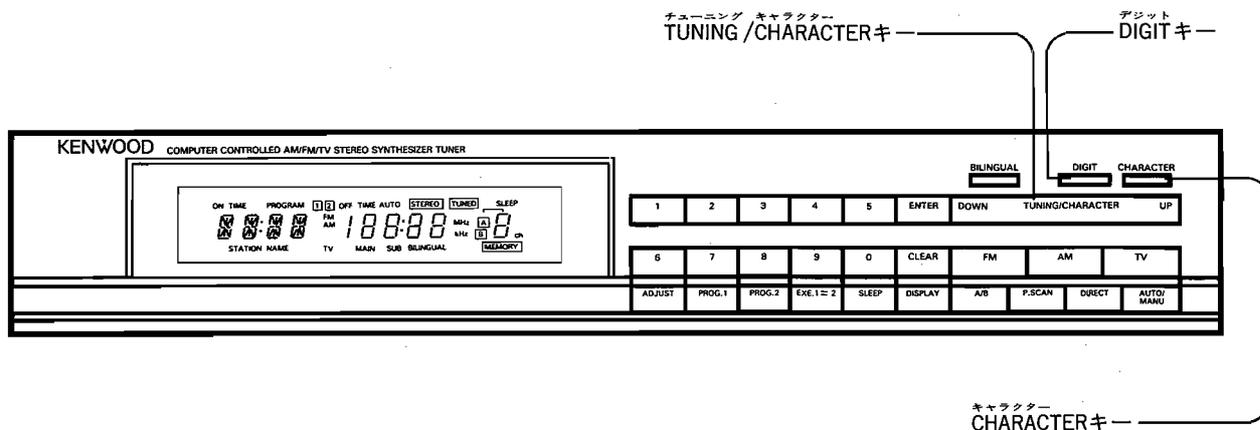
■文字入力のしかた

ステーション ネーム アンド プリセット
背面のSTATION NAME AND PRESETスイッチが“12
側”になっていることを確認してください。

入力例)プリセットチャンネル以外を受信中のとき。
FM83.4 MHzを受信し「C B E」と文字を入力し、A-
3にプリセットする場合。

1. FM83.4 MHzを受信します。
2. キャラクター CHARACTERキーを押します。
3. チューニング キャラクター TUNING/CHARACTERキーを押して“C”を選びます。
4. デジット DIGITキーを押します。
5. チューニング キャラクター TUNING/CHARACTERキーを押して“B”を選びます。
6. デジット DIGITキーを押します。
7. チューニング キャラクター TUNING/CHARACTERキーを押して“E”を選びます。
8. デジット DIGITキーを押します。
9. キャラクター CHARACTERキーを押します。
10. エンターキーを押し、数字キーの3を押します。
●入力中にまちがいに気付いたときはクリアー CLEARキーを押すと1けた目の入力待ちに戻ります。

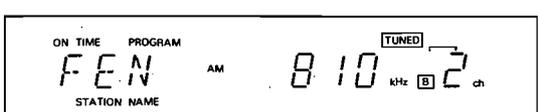
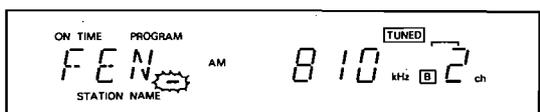
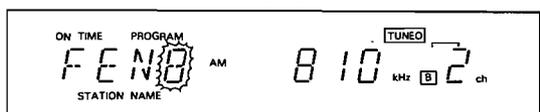
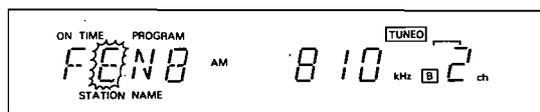
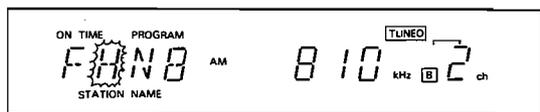
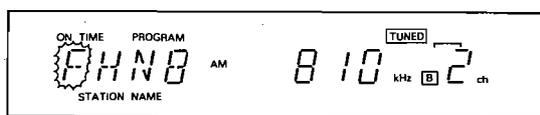




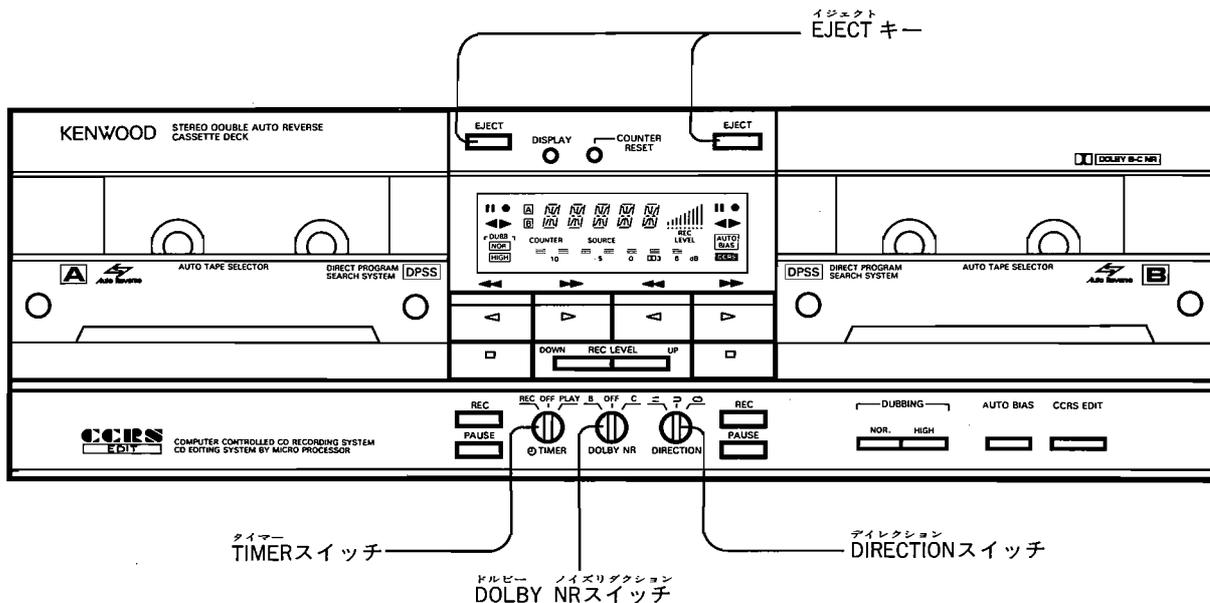
■文字の変更をするには

例)B-2 にメモリーされている「FHN 8」, AM810kHzの局名を「FEN」に変更する場合。

1. B-2 をプリセット選局します。
2. ^{キャラクター} CHARACTERキーを押します。
3. ^{デジタル} DIGITキーを押して次のけたに移します。
4. ^{チューニング キャラクター} TUNING/CHARACTERキーを押して、“E”を選びます。
5. ^{デジタル} DIGITキーを2度押して2けた移します。
6. ^{チューニング キャラクター} TUNING/CHARACTERキーを押して、空白“ ”を選びます。
7. ^{デジタル} DIGITキーを押します。



カセットテープをきくとき



■テープ再生のしかた

1. カセットデッキの^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 再生するデッキの^{イジェクト}EJECTキーを押します。
3. テープを入れ、カセットホルダーを確実に閉じます。
4. ^{ドルビー} DOLBY NRスイッチをテープに合わせて設定します。
5. ^{ダイレクション} DIRECTIONスイッチを再生のしかたにあわせて設定します。
6. 再生キー(▷)またはリバース再生キー(◁)を押します。
 - 表の面の再生：再生キー (▷)
 - 裏の面の再生：リバース再生キー (◁)

■リレー再生のしかた

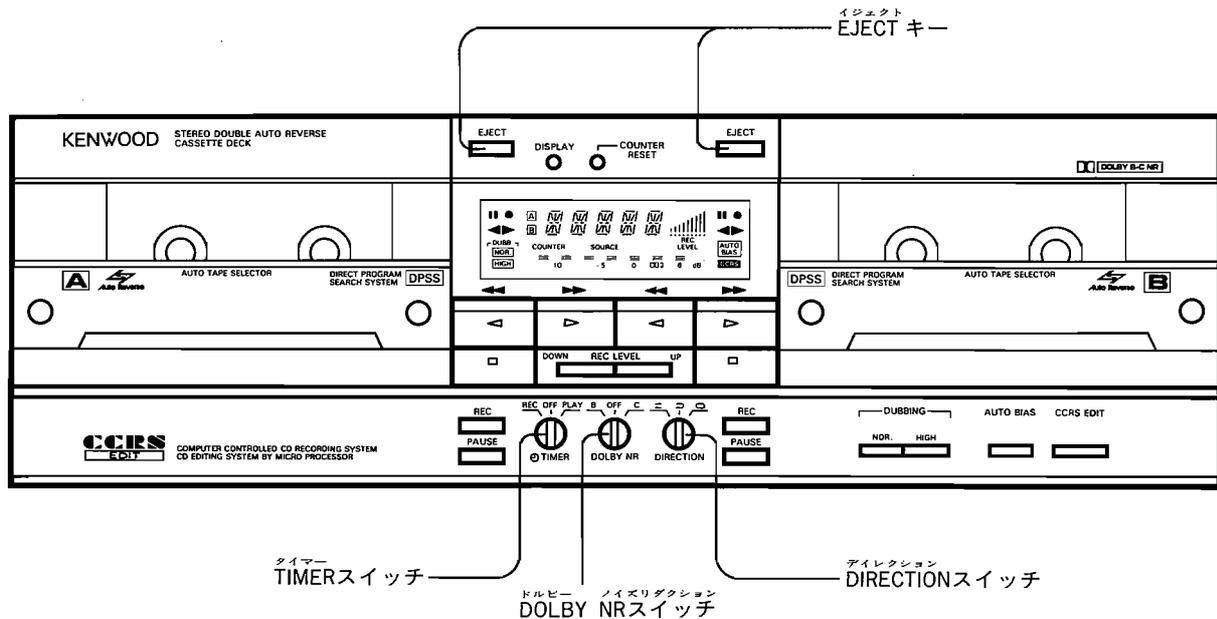
- A, B両デッキにテープを入れて再生を行うと、自動的に繰り返し、交互に再生します。
1. カセットデッキの^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
 2. 両デッキの^{イジェクト}EJECTキーを押します。
 3. 両デッキにテープをいれ、カセットホルダーを確実に閉じます。
 4. ^{ドルビー} DOLBY NRスイッチをテープにあわせて設定します。
 5. ^{ダイレクション} DIRECTIONスイッチを再生のしかたに合わせて設定します。
- 片面リレー再生のとき..... ≡
両面リレー再生のとき..... ≡
6. さきに再生したい方のデッキの再生キー(▷)か、リバース再生キー(◁)を押します。

ご注意：

テープの再生音をきくとき、またはテープからテープへのダビングを行うとき、ご使用のTVによってはTVのノイズが聞こえることがあります。このようなときは、TVの電源をOFFにするか、TVを本システムから離してください。

ご注意：

リレー再生時、テープカウンターは先に再生を始めた方のデッキを表示したままとなります。



■AデッキまたはBデッキのエンドレス再生のしかた

1. カセットデッキのTIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 再生するデッキのEJECTキーを押します。
3. テープを入れ、カセットホルダーを確実に閉じます。
4. DOLBY NRスイッチをテープにあわせて設定します。
5. DIRECTIONスイッチをエンドレスモード(∞)にします。
6. 再生するデッキの再生キー(▷)かリバース再生キー(◁)を押します。
7. エンドレス再生を解除するときは、ストップキー(□)を押します。

ドルビーノイズリダクション[NR]システムについて
 ドルビーNRシステムは、テープ再生のさいに発生する「サー」というテープヒスノイズを、聴感上、極力小さくするためのシステムです。

ドルビーNRシステムは、録音時と再生時に同じ方式を使用することで初めて効果が得られます。異なった方式で再生すると正しい音質での再生音が得られません。必ず録音再生時のドルビー方式を合せてください。
 ドルビーBタイプ：一般普及型のドルビー方式として、一般家庭用機器でドルビーNRシステムといえばBタイプを指します。

ドルビーCタイプ：ドルビーBタイプを大幅に改良した方式で、優れたノイズ低減効果が得られます。本機だけで録音再生するときはCタイプの利用をおすすめします。

ドルビーNRシステムで録音したテープには「B」「C」の区別を明記しておきましょう。

DPSSについて

DPSS(ダイレクト プログラム サーチ システム)

操作キーで指示を与えると、次のような便利な使いかたができます。

飛越選曲

一曲リピート再生

巻き戻し再生

リ・レックススタンバイ(最初から録音をとり直す)

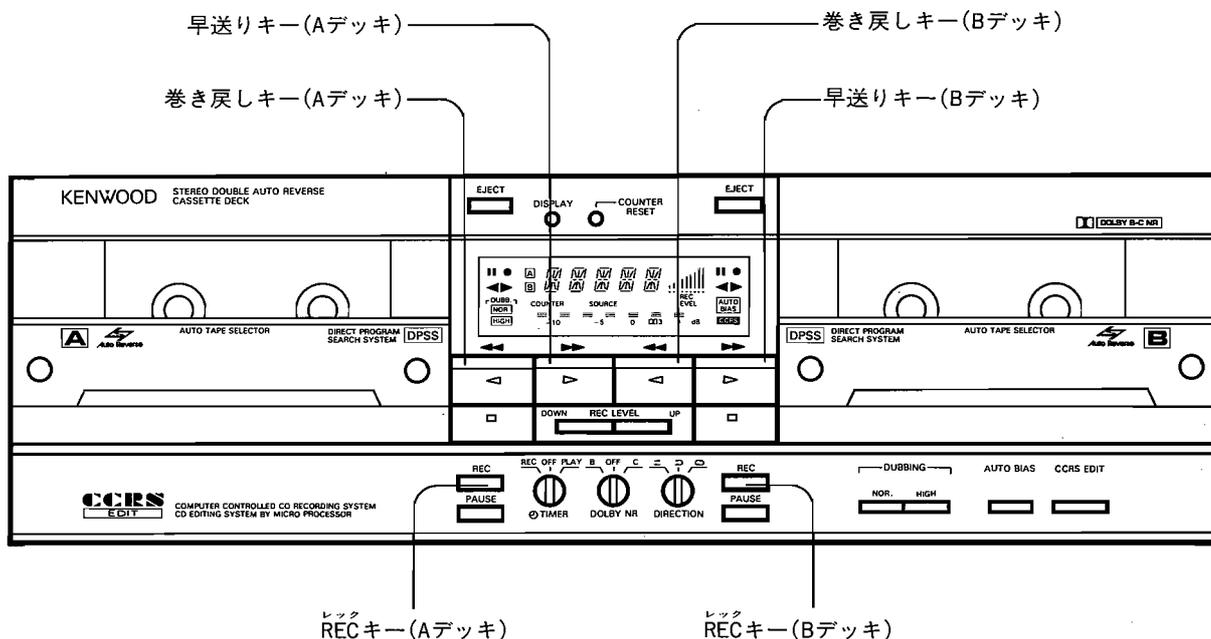
ダッシュ& プレイ

(10秒間以上の無録音時間を飛ばして再生する)

DPSS機能は、曲と曲の間の4秒間以上の無録音部分を検出してはたります。

したがって、次のようなテープは正常に動作しませんのでご注意ください。

- 会話、落語など音声^レが4秒くらい途切れるテープ
- クラシック音楽など、曲の中で極端にレベルの低い部分、または無録音部分があるテープ
- 曲間に大きな雑音などが録音されているテープ
- 曲間が4秒以下のテープ
- 低い録音レベルで録音されたテープ



■曲間(無録音部分)のつくりかた

4秒間の無録音部分をつくる時

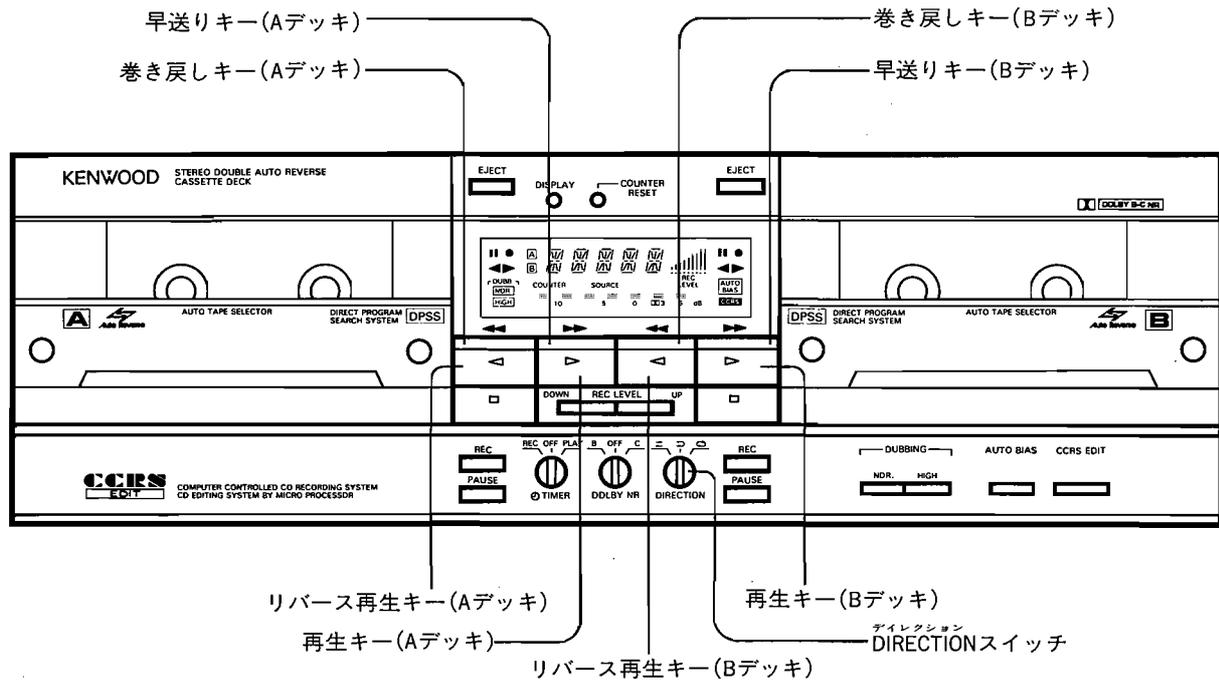
レックキーを2回続けて押します。

- 4秒間の無録音部分をつくって、録音一時停止状態になります。
- 4秒間以上の無録音部分をつくる時はレックキーを2回押し、2回目を押し続けます。

録音中に無録音部分をつくる時

レックキーを1回押します。

- 押された所から4秒間の無録音部分をつくり録音一時停止状態になります。



■先の曲の飛越選曲のしかた

現在きいている曲よりも何曲か先の曲(まだ再生していない曲)を再生します。

表の面の再生中は、早送りキー(▶▶)を押します。

裏の面の再生中は、巻き戻しキー(◀◀)を押します。

- 押した回数だけ(最大16曲先まで)飛越選曲します。

■前の曲の飛越選曲のしかた

現在きいている曲よりも何曲か前の曲(再生し終わった曲)を再生します。

表の面の再生中は、巻き戻しキー(◀◀)を押します。

裏の面の再生中は、早送りキー(▶▶)を押します。

- 押した回数だけ(最大16曲先まで)飛越選曲します。

ご注意:

1. 飛越選曲は、DIRECTIONスイッチが“▷”または“◁”にセットされていると、両面(往復)を行います。
2. 曲がはじまってすぐ巻き戻しキー(◀◀)を押したときは、一曲飛越してしまうことがあります。

■一曲リピート再生のしかた

現在きいている曲を繰り返し再生します。

表の面の再生中は再生キー(▷)をもう1回押します。

裏の面の再生中はリバース再生キー(◁)をもう1回押します。

- 一曲リピート再生は、16回繰り返した後通常の再生に戻ります。
- 解除するときはSTOPキー(□)を押します。

■巻き戻し再生のしかた

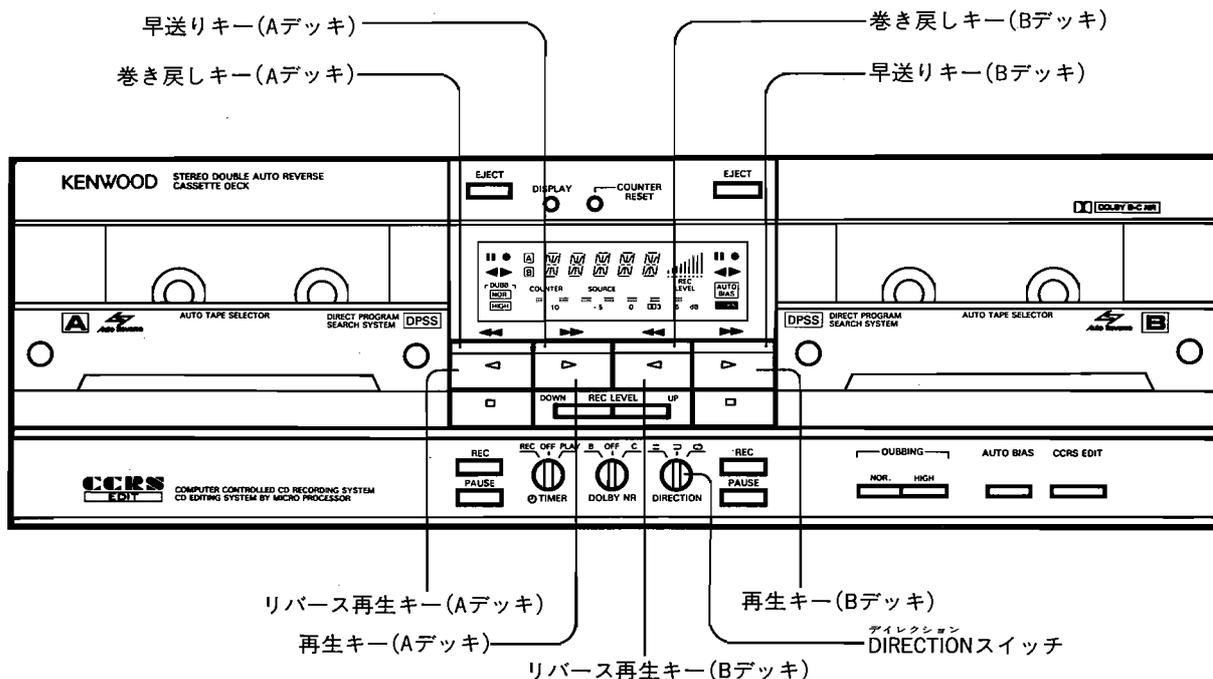
テープを巻き戻して1曲目から自動的に再生します。

表の面の再生は再生キー(▷)と巻き戻しキー(◀◀)を同時に押します。

裏の面の再生はリバース再生キー(◁)と早送りキー(▶▶)を同時に押します。

ご注意:

リモートコントロールユニットでは、この操作はできません。



■リ・レックスタンバイについて

まちがえて録音をはじめてしまったときなど、録音を中止して、録音開始位置に戻り再録音待機をします。(テープには、録音開始部分の前に4秒間以上の無録音部分が必要です。)

表の面の録音走行中は巻き戻しキー(◀◀)を押します。
裏の面の録音走行中は早送りキー(▶▶)を押します。

●録音は中止され、録音開始位置まで戻り、前の曲との間に約2秒間の無録音部分をつくれた後停止します。

1. RECキーを2回連続して押し、無録音部分をつくりま
す。
2. 再度RECキーを押します。
●録音再開となります。

ご注意：
A, B両デッキで録音中は、リ・レックスタンバイは動作しません。

■ダッシュ&プレイについて

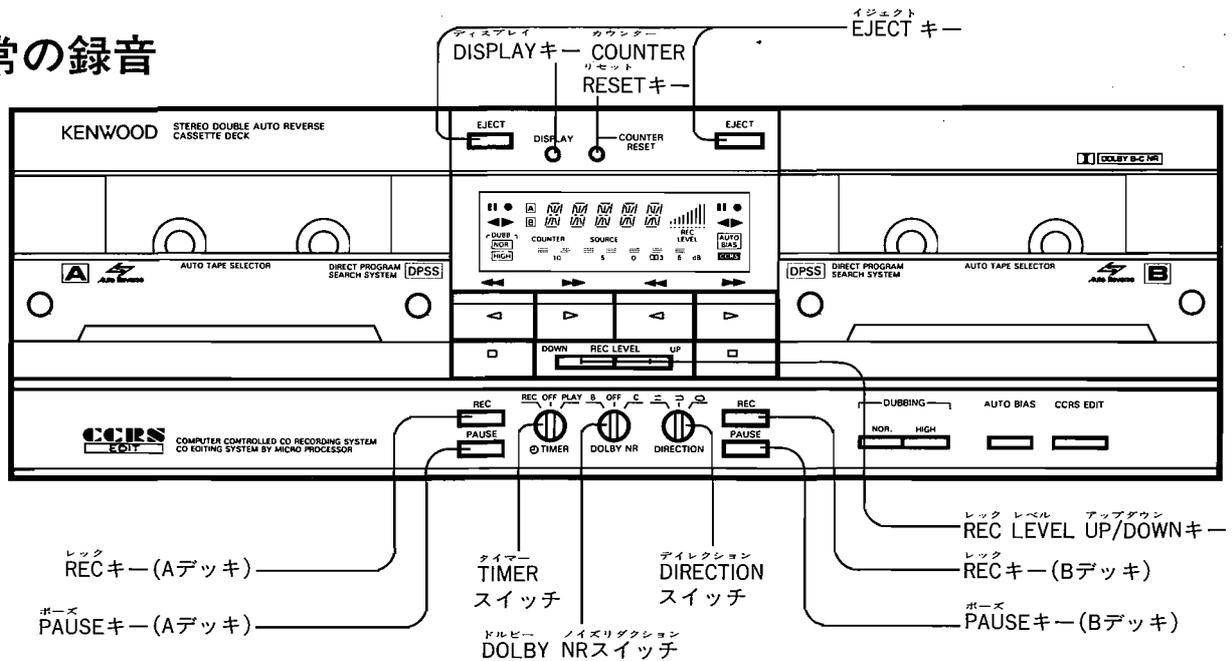
テープに約10秒以上の無録音部分があるとき、その部分を早送りしながらくりかえし再生します。

1. 再生のしかたにあわせてDIRECTIONスイッチを設定
します。
“≡”のとき……………片面8回くりかえし
“∩”のとき……………両面8回くりかえし
2. 早送りキー(▶▶)と巻き戻しキー(◀◀)を同時に押し
ます。
●解除するときはストップキー(□)を押します。

ご注意：
1. ダッシュ&プレイは、リモートコントロールユニットでは
できません。
2. 無録音部分が10秒以上でないと、正しく動作しません。
3. DIRECTIONスイッチが“∩”に設定され、カセットテー
プがA, B両デッキに入っているときは、片方のデッキのダ
ッシュ&プレイが終了すると同時に他方のデッキがダッシ
ュ&プレイ動作になります。

テープ録音のしかた

通常の録音



■録音の準備のしかた

各部の設定

1. ^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 録音するデッキの^{イジェクト}EJECTキーを押します。
3. テープを入れ、カセットホルダーを確実に閉じます。
4. ^{ディレクション}DIRECTIONスイッチを録音のしかたにあわせて設定します。

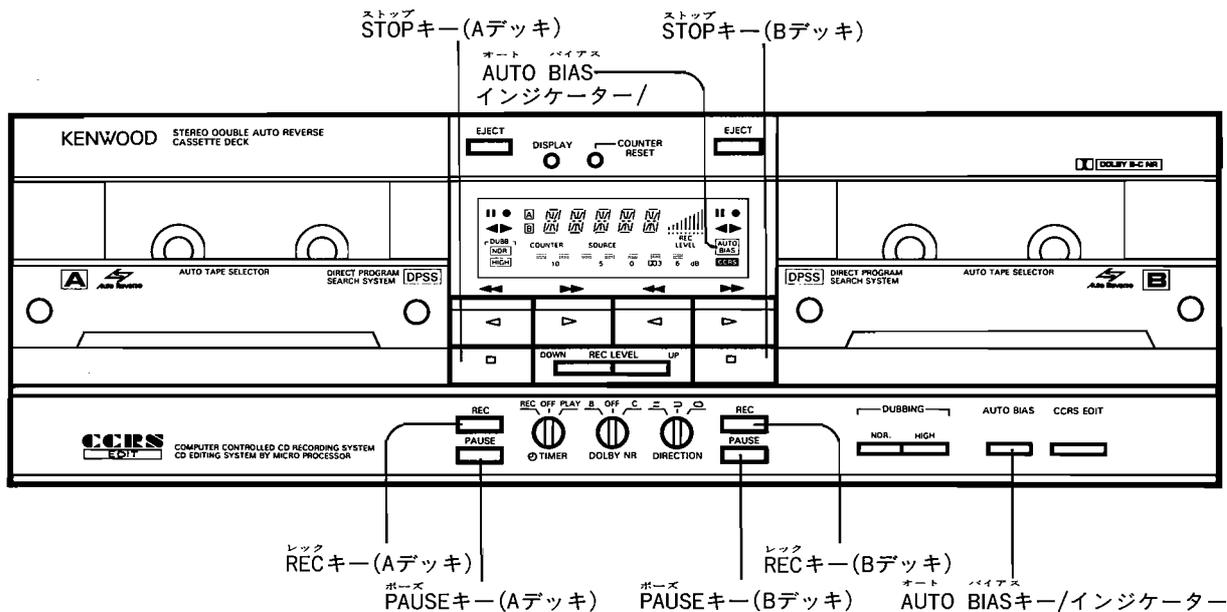
片面録音のとき..... ➡
両面録音のとき..... ➡

5. ^{ノイズリダクション}ドルビー^{ノイズリダクション} DOLBY NRスイッチをBかCの位置にします。
6. カウンター表示を使って録音を始めたい場合は、カセットデッキの^{ディスプレイ}DISPLAYキーを押してAデッキまたはBデッキのカウンター表示にしてから^{カウンタ}COUNTER^{リセット}RESETキーを押します。

録音レベルの設定

各部の設定をした後、録音レベルを設定します。

1. 録音したいソースをアンプの入力切換スイッチで選び演奏します。
 - カセットデッキのディスプレイに表示されたソースが録音の対象となります。
 - カウンター表示の場合、^{ディスプレイ}DISPLAYキーを押してソース表示にしてください。
2. ^{ポーズ}PAUSEキーを押しながら^{レック}RECキーを押して録音一時停止状態にします。
3. ピークレベルメーターを見ながらメーターの+3 dBがときどき点灯する程度に、^{レック}REC LEVEL UP/DOWNキーで調節します。
 - ^{レック}REC LEVEL ^{アップ}UP/^{ダウン}DOWNキーの位置は、ディスプレイにdB表示されます。
 - 最大位置で0dBを表示し、以下マイナスdB表示となります。



オート バイアス AUTO BIAS機能(Bデッキのみです)

ご使用のテープにあわせて最適な録音状態を設定することができます。

1. Bデッキに録音可能なテープを入れます。
2. オート バイアス
AUTO BIASキーを押します。
 - 約45秒間で調節後、設定されます。
 - バイアス調節を中止するときは、ストップキー(□)を押します。
3. オート バイアス
AUTO BIASを解除するには、EJECTキーを押します。または、アンプのPOWERスイッチをOFFにします。
 - 調節中は **AUTO BIAS** インジケーターが点滅します。設定が完了するとインジケーターが点灯に変わります。

クロームテープ、メタルテープ、ノーマルテープの対応について

クロームテープ、メタルテープ、ノーマルテープの標準録音状態は本機で自動的に設定します。

ノーマルテープには、普及品から高級品まで幅広い種類がありますが、本機にはこれらのテープでより良い音に録音するための、ノーマルテープ専用の5段階ステップのオートバイアス機能があります。

ノーマルテープのときは、オートバイアスのご使用をおすすめします。

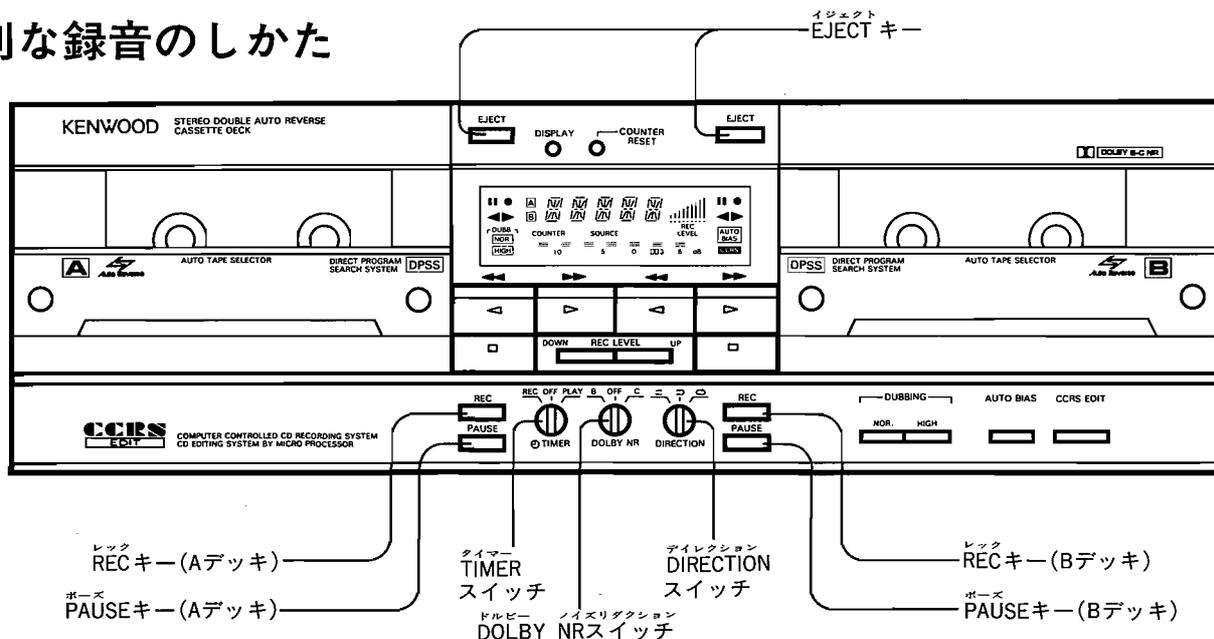
■録音のしかた

1. 録音の準備(各部の設定、録音レベルの設定)をします。
2. レック
RECキーを押します。
 - 録音を一時停止するときは、ポーズ
PAUSEキーを押します。
 - 録音を終わるときは、ストップキー(□)を押します。

ご注意：

1. オート バイアス
AUTO BIAS機能を使用しないときは、バイアスは標準値に設定されています。
2. A・B両デッキとも停止状態のとき以外は動作しません。
3. 調節中は、Aデッキの早送りキー(▶▶)、巻き戻しキー(◀◀)以外は動作しません。また、BデッキもSTOPキー以外は動作しません。
4. テープの残量が少ないときは、オート バイアス
AUTO BIASが途中で解除され停止することがあります。

便利な録音のしかた



■リレー録音のしかた

A, B両デッキに連続して録音することができます。長時間録音に便利です。

1. ^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 両デッキの^{イジェクト}EJECTキーを押し、録音可能なテープを入れます。
3. 録音したいソースをアンプの入力切換スイッチで選び演奏します。
●カセットデッキのディスプレイに表示されたソースが録音の対象となります。
(カウンター表示の場合、^{ディスプレイ}DISPLAYキーを押してソース表示にします。)
4. 録音レベルを設定します。
5. 録音のしかたにあわせて^{ダイレクション}DIRECTIONスイッチを設定します。
片面録音のとき.....
両面録音のとき.....
6. ^{ノイズリダクション}ドルビーNR録音するときは^{ドルビーノイズリダクション}DOLBY NRスイッチをBかCの位置にします。
7. A, Bいずれかのデッキの^{レック}RECキーを押します。
●押したほうのデッキから録音が始まります。
8. 他方のデッキの^{レック}RECキーと^{ポーズ}PAUSEキーを同時に押して録音一時停止状態にします。

ご注意:

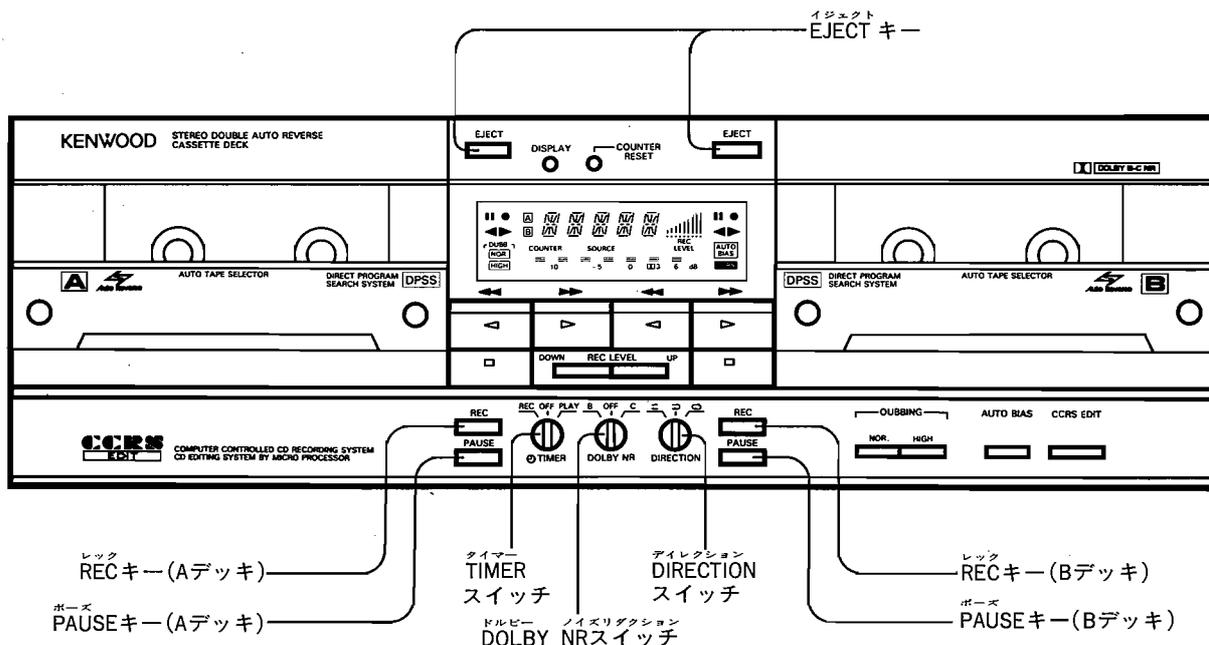
^{ダイレクション}DIRECTIONスイッチが“(C)”の位置になっているとリレー録音になりません。

■同じソースをA, B両デッキで録音するとき

1. ^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 両デッキの^{イジェクト}EJECTキーを押し、録音可能なテープを入れます。
3. 録音したいソースをアンプの入力切換スイッチで選び演奏します。
●カセットデッキのディスプレイに表示されたソースが録音されます。
(カウンター表示の場合、^{ディスプレイ}DISPLAYキーを押してソース表示にします。)
4. 録音レベルを設定します。
5. 録音のしかたにあわせて^{ダイレクション}DIRECTIONスイッチを設定します。
片面録音のとき.....
両面録音のとき.....
6. ^{ノイズリダクション}ドルビーNR録音するときは^{ドルビーノイズリダクション}DOLBY NRスイッチをBかCの位置にします。
7. A, B両デッキの^{レック}RECキーを押します。

ご注意:

1. AデッキとBデッキでそれぞれ異なったソースを録音することはできません。
2. AデッキとBデッキでそれぞれ異なった録音レベルの設定はできません。
3. AデッキとBデッキでそれぞれ異なった^{ドルビーノイズリダクション}DOLBY NRスイッチの設定はできません。



■シンクロ録音のしかた

CDプレーヤーまたはレコードプレーヤー（別売）を再生すると同時にカセットデッキの録音動作をすることが出来ます。

CDプレーヤーとのシンクロ録音

1. TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. CDプレーヤーの^{プレイ}PLAY/^{ポーズ}PAUSEキーを2度押しして一時停止状態にします。
3. 録音するデッキの^{イジェクト}EJECTキーを押し、録音可能なテープを入れます。
4. 録音のしかたにあわせて^{ダイレクション}DIRECTIONスイッチを設定します。

片面膜音のとき..... ≡
両面膜音のとき..... ⊂
5. ^{ドルビーノイズリダクション}ドルビーNR録音をするときは、^{ドルビーノイズリダクション}DOLBY NRスイッチをBまたはCの位置にします。
6. 録音するデッキの^{ポーズ}PAUSEキーを押しながら^{ストップ}RECキーを押して録音一時停止状態にします。
7. CDプレーヤーの^{プレイ}PLAY/^{ポーズ}PAUSEキーを押します。
●CDプレーヤーは演奏を開始し、同時にカセットデッキは録音を開始します。
●CDプレーヤーの演奏が終わると、カセットデッキは、約4秒間の無録音部分をつくって停止します。

録音の一時停止

- CDプレーヤーの^{プレイ}PLAY/^{ポーズ}PAUSEキーを押します。
- カセットデッキは約4秒間の無録音部分をつくって録音一時停止状態になります。
 - 録音を再開するときは、CDプレーヤーの^{プレイ}PLAY/^{ポーズ}PAUSEキーを押します。

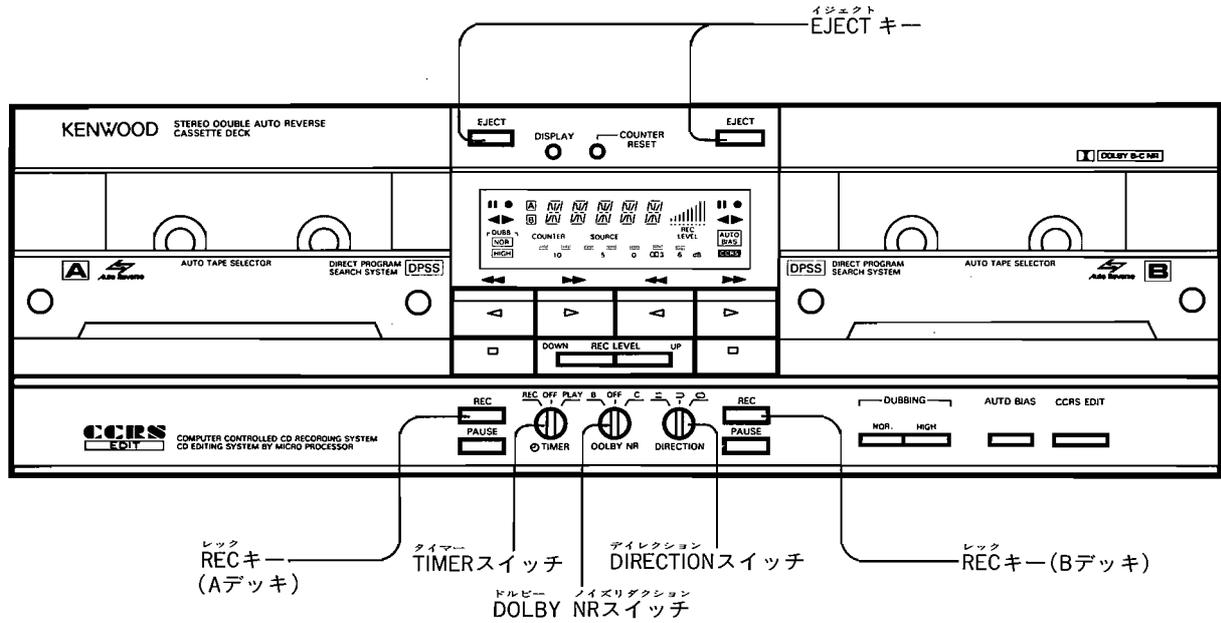
録音の中止

- CDプレーヤーの^{ストップ}STOPキーを押します。
- CDプレーヤーの演奏が停止すると同時にカセットデッキは約4秒間の無録音部分をつくって停止します。

ご注意：

CDプレーヤーとのシンクロ録音中には、アンプの他の入力切替スイッチを押しても切り換わりません。

CDをカセットデッキに録音しながら他のソースをききたいときは、39ページの“CD RECの使いかた”をご参照ください。



レコードプレーヤー(別売)とのシンクロ録音

1. カセットデッキの^{タイマー}TIMERスイッチをOFFの位置にします。
2. 録音するデッキの^{イジェクト}EJECTキーを押し、録音可能なテープを入れます。
3. 録音のしかたにあわせて^{ディレクション}DIRECTIONスイッチを設定します。
 片面録音のとき..... ≡
 両面録音のとき..... U
4. ^{ノイズリダクション}ドルビーNR録音をするときは、^{ドルビー}DOLBY NRスイッチをBまたはCの位置にします。
5. アンプの入力切換スイッチの^{フオン}PHONOを押します。
 ●トーンアームがスタートしたときは、プレーヤーの^{プレイ/カット}PLAY/CUTキーを押してトーンアームをアームレストへもどしてください。
6. 録音するデッキの^{ポーズ}PAUSEキーを押しながら^{レック}RECキーを押して録音一時停止状態にします。
7. プレーヤーの操作手順に従い、^{プレイ/カット}PLAY/CUTキーを押してレコードを演奏します。
 ●レコードの演奏開始と同時にカセットデッキは録音を開始します。

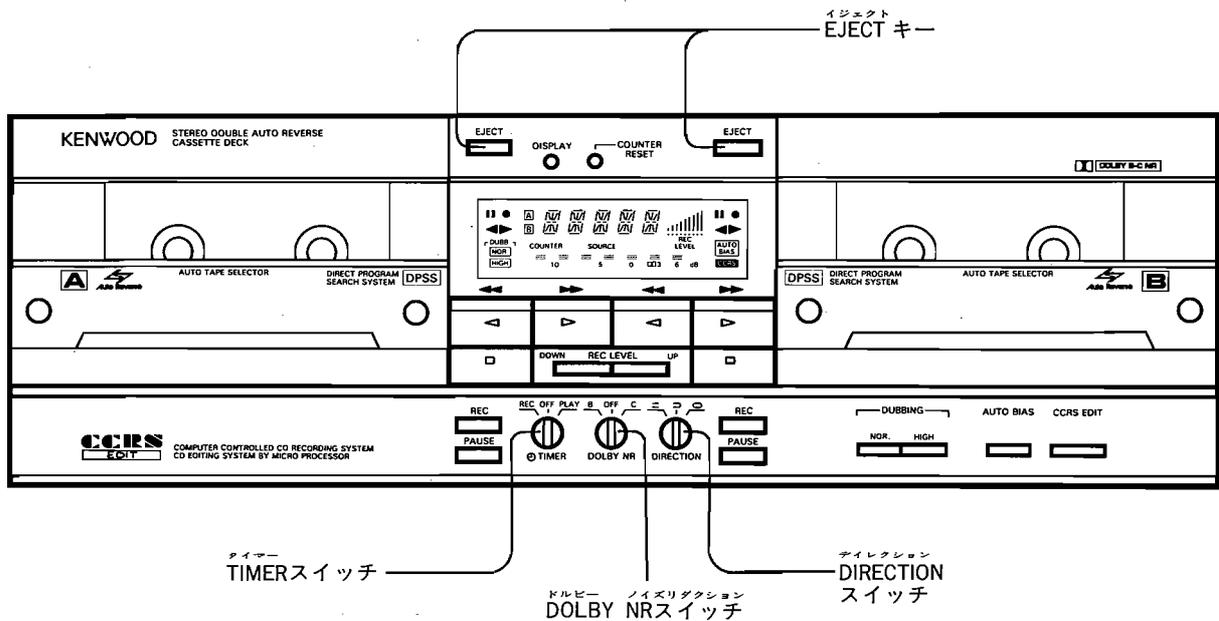
録音の一時停止

- プレーヤーの^{キューイング}CUEINGキーを押します。(P-7 E, P-5 Eのみ)
- カセットデッキは約4秒間の無録音部分をつくって録音一時停止状態になります。
 - 録音を再開するときは、プレーヤーの^{キューイング}CUEINGキーを押します。

録音の中止

- プレーヤーの^{プレイ/カット}PLAY/CUTキーを押します。
- レコードの演奏が停止すると同時にカセットデッキは約4秒間の無録音部分をつくって停止します。

CDの録音のしかた



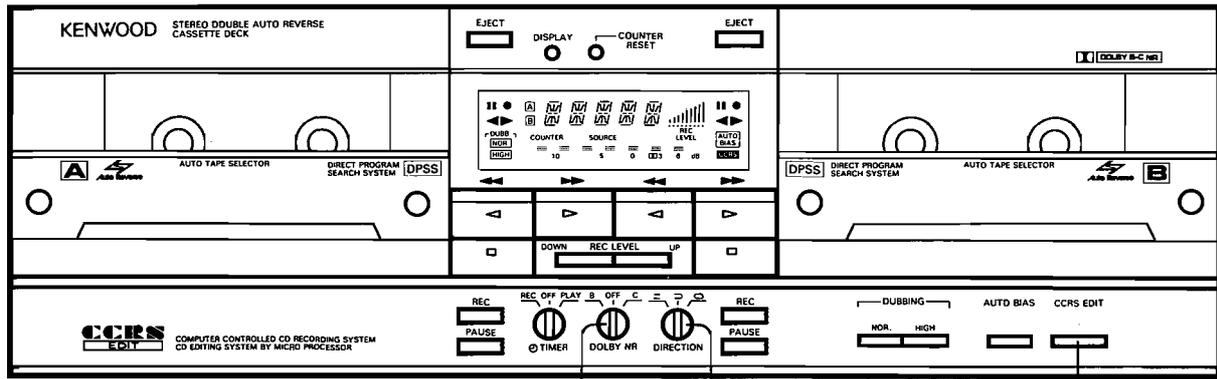
■CD RECの使いかた

CDをカセットデッキに録音しながらテープ以外のソースをきくことができます。

1. CDプレーヤーに録音したいCDを入れます。
2. 録音するデッキの^{イジェクト}EJECTキーを押して録音可能なテープを入れます。
3. ^{ディレクション}DIRECTIONスイッチを録音のしかたにあわせて設定します。

片面録音のとき..... ≡

両面録音のとき..... ∩
4. ^{ノイズリダクション}ドルビーNR録音をするときは^{ドルビー}DOLBY NRスイッチをBかCの位置にします。
5. アンプの^{レップ}CD RECキーを押します。
6. CDプレーヤーのPLAY/PAUSEキーを2度押してCDプレーヤーを一時停止状態にします。
7. 録音するデッキの^{ポーズ}PAUSEキーを押しながら^{レップ}RECキーを押して録音一時停止状態にします。
8. CDプレーヤーの^{プレイ}PLAY/^{ポーズ}PAUSEキーを押します。
 - CDプレーヤーは演奏を開始し、同時にカセットデッキは録音を開始します。
 - CDプレーヤーの演奏が終るとカセットデッキは約4秒間の無録音部分を作って停止します。
9. アンプの入力切換スイッチをCD及び^{テープ}TAPE 以外に切換えて他のソースをきくことができます。
10. 録音終了後、アンプの^{レップ}CD RECキーを押して解除してください。
 - カセットデッキの録音を解除しないと^{レップ}CD RECキーは解除できません。



ドルビー ノイズリダクション DOLBY NRスイッチ
 ダイレクション DIRECTIONスイッチ
 CCRS エディット CCRS EDIT キー

■CCRS(コンピューターコントロールドCDレコーディングシステム)EDITの使いかた (Bデッキのみです)

CDの音を自動的に編集, 最適レベルで録音することができます。

操作のしかた

1. CDプレーヤーにCDを正しくセットします。
2. Bデッキに録音可能なテープを入れます。
 - テープは完全に巻き戻しておきます。
 - Bデッキのテープ走行方向を▷にします。
3. カセットデッキのDIRECTIONスイッチを録音のしかたにあわせて設定します。

片面録音のとき..... ≡
 両面録音のとき..... ▷

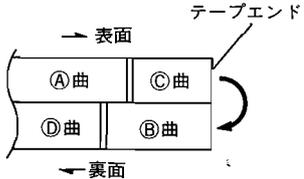
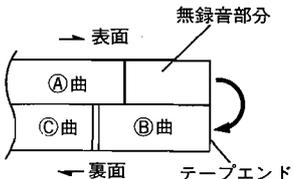
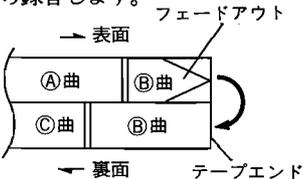
4. ドルビーNR録音をするときはDOLBY NRスイッチをBまたはCの位置にします。
5. CDプレーヤーのプレイモードを編集録音のしかたにあわせて設定します。

6. カセットデッキのCCRS EDITキーを押します。
 - CDプレーヤーが最適レベルを設定するためにサーチ動作にはいり, 続いてカセットデッキがオートバイアス動作をします。
 - 約120秒間で設定を完了し自動的にCDプレーヤーからBデッキへの録音状態となります。
 - 停止するには, ディスクトレイを開けるかストップキー(□)を押してください。

ご注意:

1. CDプレーヤーの演奏中にCCRS EDITキーを押すと, 演奏は中止されCCRS動作にはいりません。
2. テープの残量が少ないときは, CCRS動作が途中で解除されることがあります。
3. CCRSはディスクのピークレベルをさがすため, ごくまれに最適レベルに設定しきれない場合があります。このようなときは, 通常の録音にて御使用ください。
4. CCRSで録音中は, 録音レベルの調節はできません。
5. CCRSのレベル設定は, CDプレーヤーのOPEN/CLOSEキーを押したとき, 電源を切ったときに解除されます。このとき, カセットデッキの自動バイアスが設定済み(カセットデッキのAUTOBIASインジケータ点灯状態)であれば, バイアス設定は維持されます。
6. カセットデッキの自動バイアス設定は, BデッキのEJECTキーを押すと解除されます。
7. クラシック等一つのトラック番号で長い曲はテープの片面に録音しきれないのでCCRS EDITが使用できません。この様なときは下記の操作で録音を行ってください。
 - ① CCRS録音をするときはカセットデッキのCCRS EDITキーを押し, 約120秒後にCDプレーヤーのプレイインジケータ(▷)が点灯し演奏が開始される直前でCDのSTOPキーを押します。CCRS録音をしないときは②の操作から行ってください。
 - ② カセットデッキのPAUSEキーを押しながらRECキーを押して録音一時停止状態にします。
 - ③ CDプレーヤーのPLAY/PAUSEキーを押します。

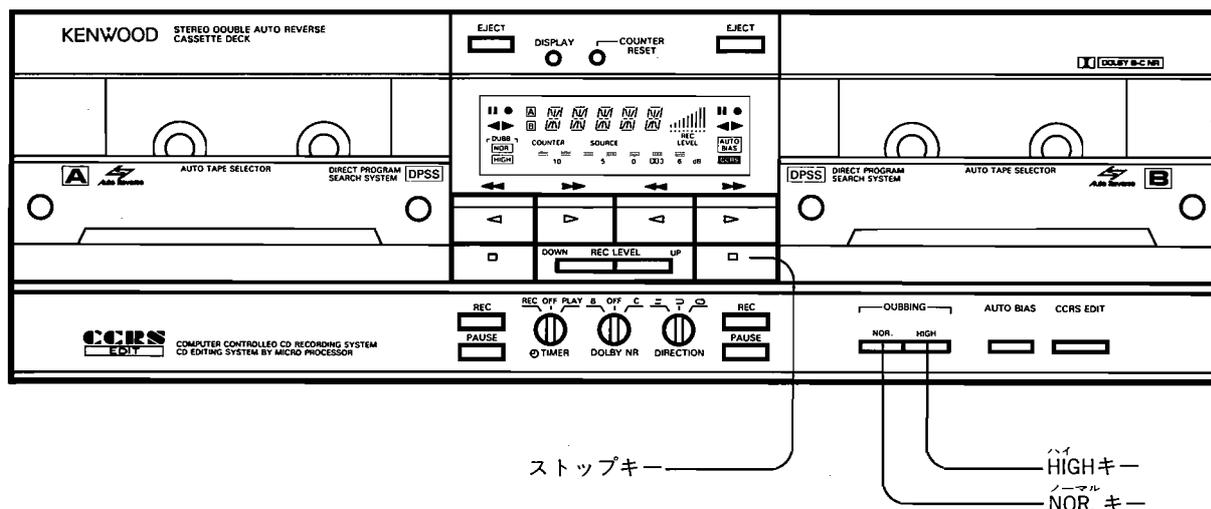
編集録音のしかた

CDプレーヤーの プレイモード	プログラム編集モード PGM EDITモード ([PGM], EDIT両インジケータ 点灯)	プログラム PGMモード ([PGM]インジケータ点灯)	トラック TRACKモード ([TRACK]インジケータ点灯)
編集内容	<p>指定時間内に表面、裏面とも曲が途切れないように選曲し録音します。</p> 	<p>プログラム順に録音し、テープエンドで曲が途切れないように録音します。</p> 	<p>ディスクのトラック番号順に録音し、テープエンドにかかる曲はフェードアウトし、裏面にその曲の最初から録音します。</p> 
設定のしかた	<p>1. CDプレーヤーのEDITキーを押します。 2. EDITキーを押してから5秒以内にCDプレーヤーの[1]~[0]キーと[+10]キーで、録音するテープの往復時間を入力します。</p>	<p>CDプレーヤーのP. MODEキーを押してプログラムを行ないます。</p>	<p>CDプレーヤーのP. MODEキーを押してディスプレイの[TRACK]インジケータを点灯させます。</p>

※フェードアウト：音がだんだん小さくなること。

テープのダビング (A→Bデッキのみ)

録音済みのテープから別のテープへコピーすることをダビングといいます。



■ ノーマルダビングのしかた

1. Aデッキに録音済みテープをいれます。
2. Bデッキに録音可能なテープをいれます。
3. ^{ノーマル} NOR.キーを押します。
 - AデッキからBデッキへのダビングが始められます。
 - ダビング中にBデッキの操作キーのどれかを押すと、ダビングは解除され、Bデッキは押されたキーの動作をし、Aデッキは停止します。
 - ダビング中にAデッキの操作キーのどれかを押すと、ダビングは一時停止状態になり、Aデッキは押されたキーの動作をします。このとき、Bデッキは約4秒間の無録音部分をつくって録音一時停止状態になります。
4. ダビングを終了するときは、Bデッキのストップキー(□)を押します。
 - A、B両デッキとも停止状態となります。

ダビングの一時停止

- ^{ノーマル} NOR.キーを押します。
- 約4秒間の無録音部分をつくった後、Bデッキはダビング一時停止状態になります。
 - ダビングを再開するときは、再度^{ノーマル} NOR.キーを押してください。

■ 高速ダビングのしかた

ノーマルダビングの約二分の一の時間でダビングすることができます。

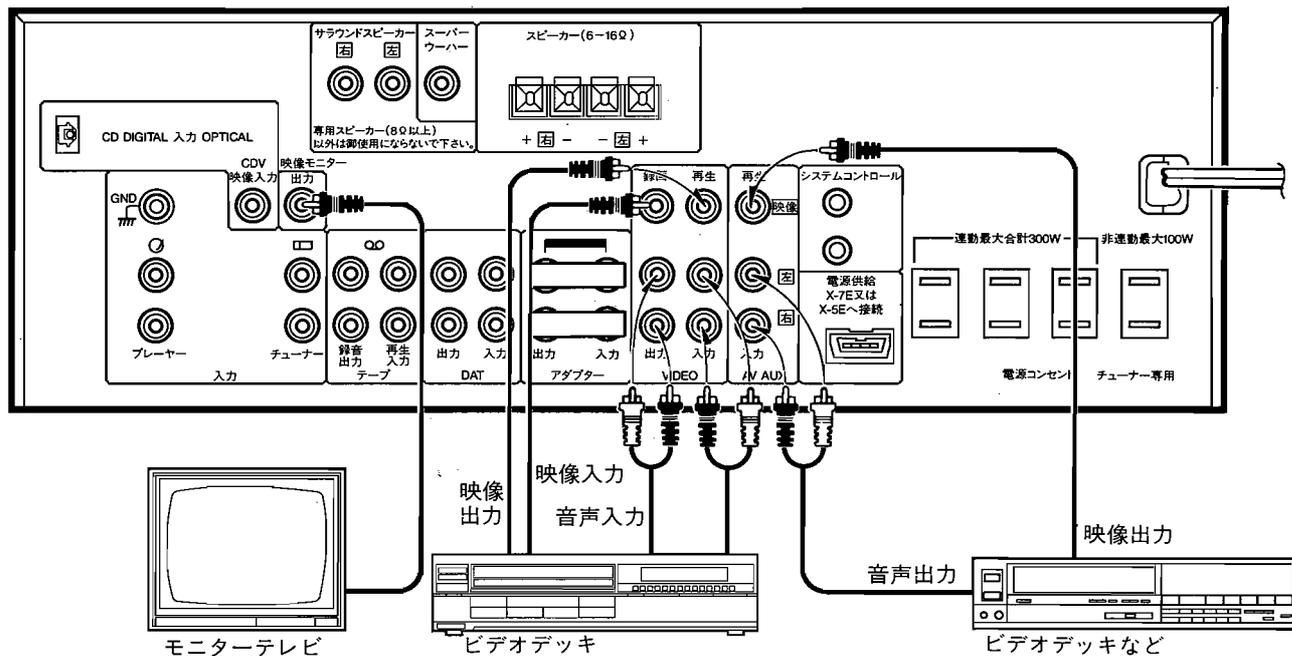
1. Aデッキに録音済みテープをいれます。
2. Bデッキに録音可能なテープをいれます。
3. ^{ハイ} HIGHキーを押します。
4. 高速ダビングを終了するときは、Bデッキのストップキー(□)を押してください。

ご注意：

1. ダビング時は録音レベルの調節ができません。適正なレベルで録音されたテープをAデッキに入れてください。
2. ダビング中は、DOLBY NRスイッチの位置にかかわらずドルビーNRの切り換えはできません。(Aデッキと同じテープがつけられます)

例) Aデッキのテープが、^{ノイズリダクション}ドルビーNR Bで録音されているときは、Bデッキのテープも^{ノイズリダクション}ドルビーNR B状態で録音されます。
3. ダビングしたテープからさらにダビングをしますと音質をそこないますので、ダビング時は常にオリジナルテープをAデッキに入れることをおすすめします。
4. システムの近くにテレビが置かれている状態で高速ダビングを行いますと、テレビの雑音が発音されていることがあります。できるだけテレビを離してください。
5. 録音レベルが高いテープを高速ダビングしますと音質をそこなうことがあります。このようなときは、ノーマルダビングで録音してください。

映像機器を使用するには



■接続のしかた

まず、電源コードをコンセントから抜いて、各機器を次のように接続します。上の図と別紙添付の“接続のしかた”を参照してください。

ビデオデッキの接続

1. ビデオデッキの映像出力端子とアンプのVIDEO映像入力(再生)端子とをビデオコードで接続します。
2. ビデオデッキの映像入力端子とアンプのVIDEO映像出力端子(録画)とをビデオコードで接続します。
3. ビデオデッキの音声出力端子とアンプのVIDEO左・右入力(再生)端子とを、左右正しくオーディオコードで接続します。
4. ビデオデッキの音声入力端子とアンプのVIDEO左・右出力(録音)端子とを、左右正しくオーディオコードで接続します。

モニターTVの接続

アンプの映像モニター出力端子とモニターTVの映像入力端子をビデオコードで接続します。

■再生／録画のしかた

ビデオの再生

1. モニターTVの電源をいれます。
2. アンプの入力切換スイッチのVIDEOを押します。
 - 入力切換インジケータ(□, ○)が点灯します。
3. ビデオデッキを再生します。
 - 音声と映像が再生されます。
 - 映像をみながらTAPE, TUNERまたはPHONOのソースをききたいときは、アンプの入力切換スイッチを押します。このときVIDEOの○インジケータは点灯のまま、□インジケータは選ばれた入力切換インジケータに切り換ります。

ビデオの録画

1. アンプのAV AUX端子に、録画したい映像機器を接続します。
2. アンプの入力切換スイッチのAV AUXを押します。
3. ビデオデッキを録画状態にします。
4. AV AUXに接続した機器を再生します。

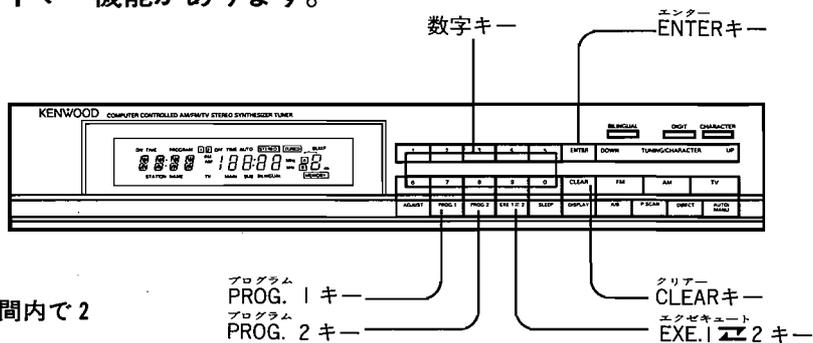
ご注意：

1. テレビに色ムラが生じる場合は、11ページの“スピーカーの防磁とテレビについて”をごらんください。
2. ビデオ録画中には、アンプの入力切換スイッチを切り換えないでください。切り換えた場合、入力切換スイッチで選ばれた音声または音声と映像が録音または録画されます。
3. 接続や操作については、接続する映像機器の取扱説明書をあわせてよくお読みください。

タイマーについて

タイマーの使いかた

タイマープログラム機能とスリープタイマー機能があります。

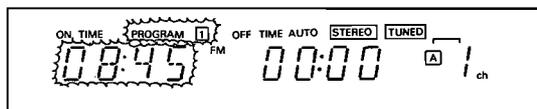
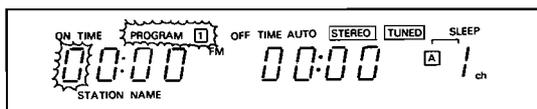


■タイマープログラム機能について

次の4種類の使いかたのうちの1種類を、24時間内で2系統(プログラム①, ②)の時間に設定できます。

- 放送のタイマー受信
- CDプレーヤーのタイマー演奏
- テープのタイマー演奏
- 放送のタイマー録音

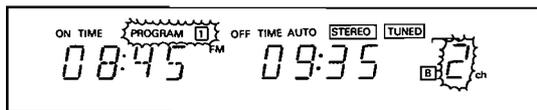
どの使いかたをするときも、まずON時刻, OFF時刻を設定し、つぎに使いかたによってそれぞれの機器の準備をします。



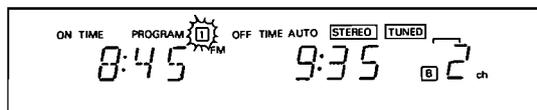
0-8-4-5と入力します。



0-9-3-5と入力します。



A/B切換キーでBを選び、数字キーで2を選ぶ。



5秒後に初期状態に戻ります。

ON時刻/OFF時刻の設定のしかた

タイマー動作は一度設定すると毎日同じ動作をくりかえします。毎日タイマープログラムを実行させないときは、EXE.1/2 キーを押してPROGRAM インジケータの①, ②が点灯しない状態にします。(47ページ参照)

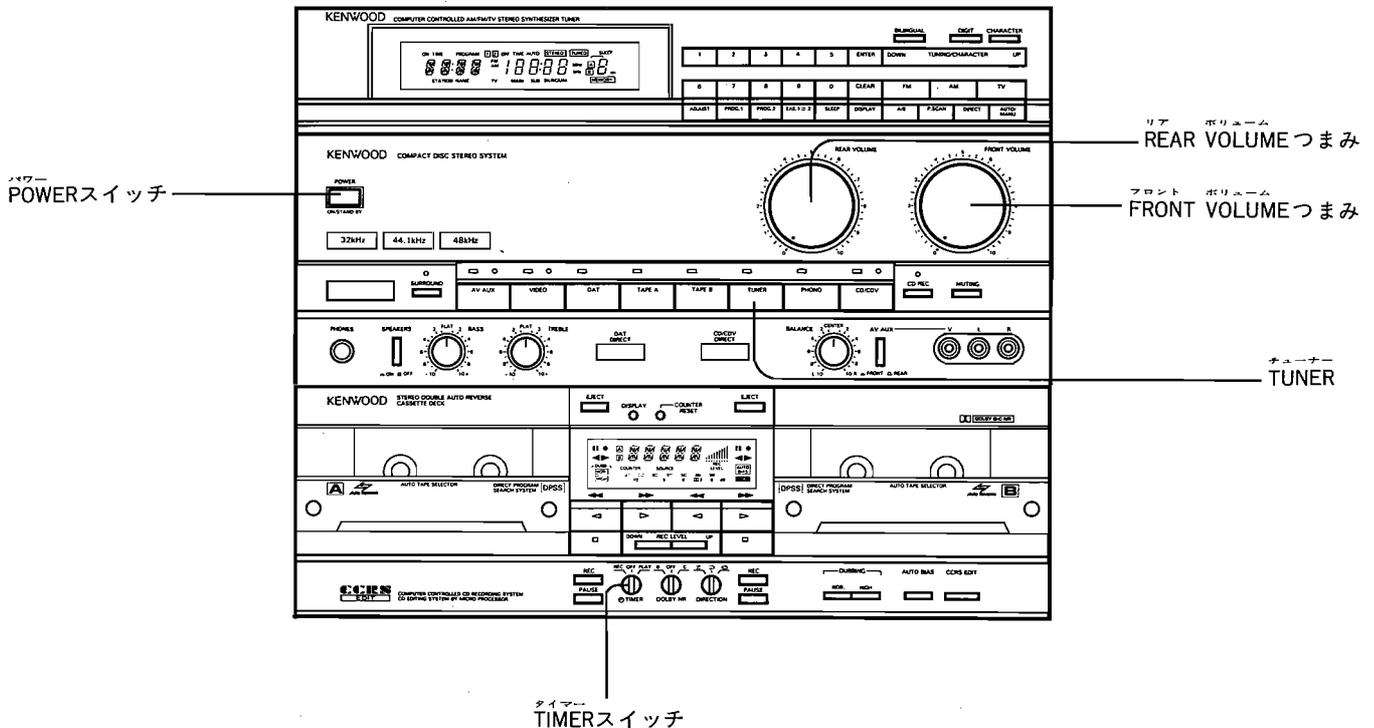
例) プログラム①にON時刻「8:45」、OFF時刻「9:35」、プリセットチャンネルB-2を設定するとき。

1. PROGRAM ①キーを押し、ENTERキーを押します。
 - PROGRAM ①キーを押してから5秒以内にENTERキーを押さなければもとの状態に戻ります。
2. ON時刻を入力します。
 - 修正したいときはCLEARキーを押して、入力しなおします。
3. ENTERキーを押します。
4. OFF時刻を入力します。
 - 修正したいときにはCLEARキーを押して、入力しなおします。
5. ENTERキーを押します。
 - CDプレーヤーのタイマー演奏、テープのタイマー演奏のときは、手順6.をとばして手順7.を行います。
6. プリセットチャンネルを入力します。
 - 修正したいときはCLEARキーを押して、入力しなおします。
7. ENTERキーを押します。
 - ON時刻とOFF時刻の設定完了となります。
 - プログラム②も同様の手順で行うことができます。

ご注意: プログラム①または②の設定中にそれぞれPROGRAM ①, ②キーを押すと、タイマー設定状態から初期状態に戻ります。

各機器の準備

タイマープログラムの設定を完了後、各機器の準備をします。

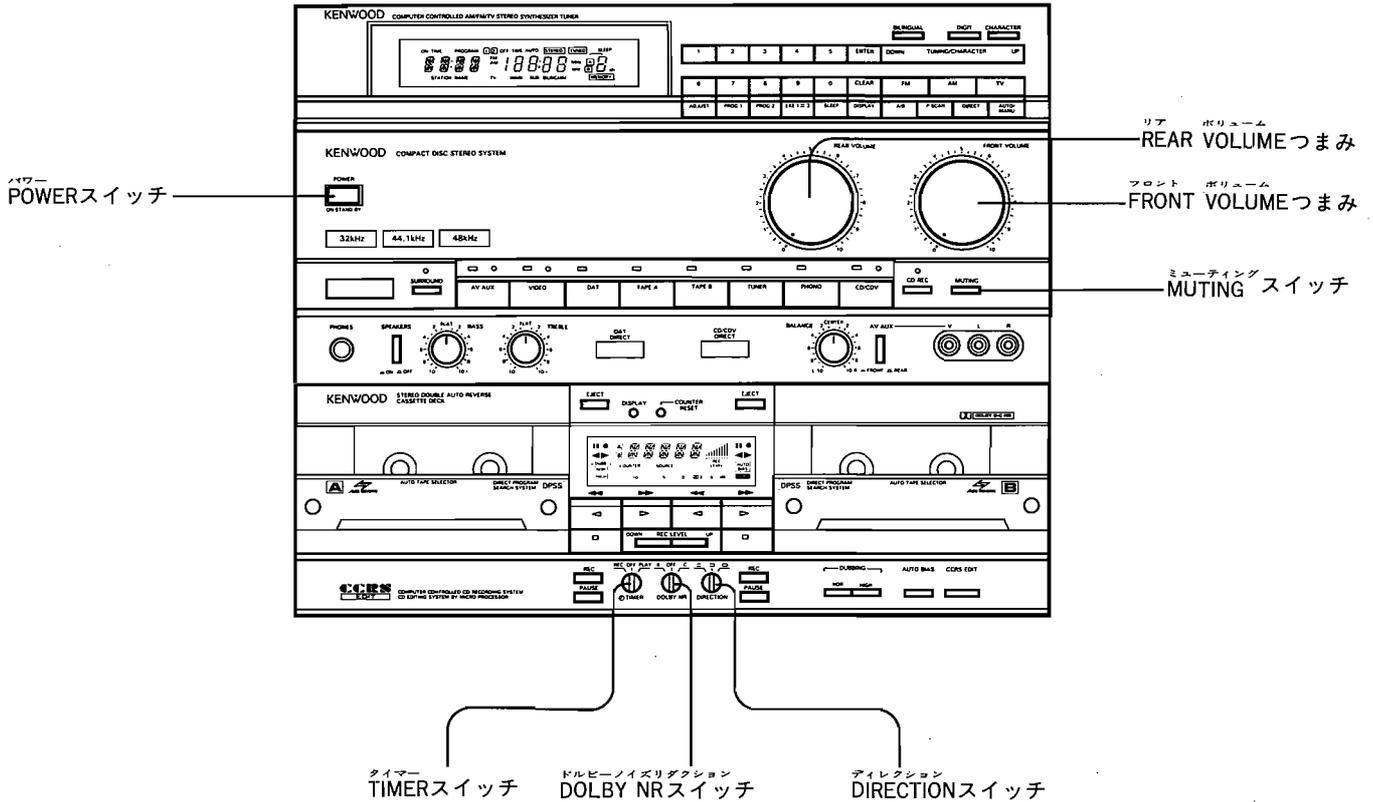


■放送のタイマー受信のしかた

1. カセットデッキの^{タイマー}TIMERスイッチを^{オフ}OFFの位置にします。
2. CDプレーヤーのディスプレイ内のCDを取り出します。
3. アンプの入力切換スイッチの^{チューナー}TUNERを押します。
4. アンプの^{フロント}FRONT VOLUMEつまみ、^{リア}REAR VOLUMEつまみで音量を調節します。
5. アンプの^{パワー}POWERスイッチを押して^{スタンバイ}OFF (STAND BY) 状態にします。

■CDプレーヤーのタイマー演奏のしかた

1. CDプレーヤーにディスクをセットします。
2. カセットデッキの^{タイマー}TIMERスイッチを^{オフ}OFFの位置にします。
3. アンプの^{フロント}FRONT VOLUMEつまみ、^{リア}REAR VOLUMEつまみで音量を調節します。
4. アンプの^{パワー}POWERスイッチを押して、^{スタンバイ}OFF (STAND BY) 状態にします。



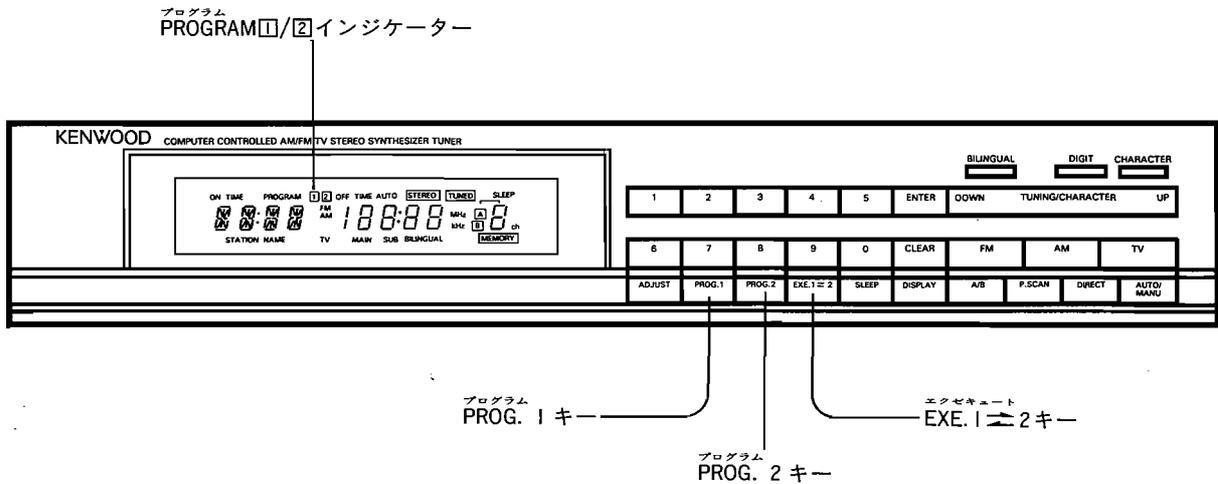
■テープのタイマー演奏のしかた

1. カセットデッキに演奏したいテープをいれます。
2. カセットデッキの^{ドルビー} ^{ノイズリダクション} DOLBY NRスイッチをテープに合わせて設定します。
3. カセットデッキの^{ディレクション} DIRECTIONスイッチを演奏のしかたにあわせて設定します。
 片面リレー再生のとき..... ⇨
 両面リレー再生のとき..... ⇨
4. カセットデッキの^{タイマー} ^{プレイ} TIMERスイッチをPLAYの位置にします。
5. アンプの^{フロント} ^{ボリューム} FRONT VOLUMEつまみ、^{リア} ^{ボリューム} REAR VOLUMEつまみで音量を調節します。
6. アンプの^{パワー} POWERスイッチを押して、OFF (^{スタンバイ} STAND BY) 状態にします。

■放送のタイマー録音のしかた

1. カセットデッキに録音に必要なテープのみをいれます。
2. カセットデッキの^{ドルビー} ^{ノイズリダクション} DOLBY NRスイッチをご希望の位置にします。
3. カセットデッキの^{ディレクション} DIRECTIONスイッチを録音のしかたにあわせて設定します。
 片面録音のとき..... ⇨
 両面録音のとき..... ⇨
 片面リレー録音(A→Bのみ)のとき ⇨
 両面リレー録音(A→Bのみ)のとき ⇨
4. カセットデッキの^{タイマー} TIMERスイッチをRECの位置にします。
5. アンプの^{フロント} ^{ボリューム} FRONT VOLUMEつまみ、^{リア} ^{ボリューム} REAR VOLUMEつまみで音量を最小にします。
6. アンプの入力切換スイッチの^{チューナー} TUNERを押します。
7. CD RECキーがOFFであることを確認して、アンプの^{パワー} POWERスイッチを押してOFF (^{スタンバイ} STAND BY) 状態にします。

タイマープログラムの実行のしかた



■タイマープログラムを実行させるとき

タイマープログラムは、^{プログラム}PROGRAMインジケータの1, 2が点灯しているときのみ実行されます。^{EXECUTE}EXECUTE 1/2 切換キーで実行のしかたを設定します。

- EXECUTE 1/2 切換キーを押すごとに、インジケータは左図の様に变化します。

プログラム1/2インジケータの変化



■タイマープログラムを実行させないとき

^{EXECUTE}EXECUTE 1/2 キーを押して、^{プログラム}PROGRAMインジケータの1, 2が点灯しない状態にします。

■タイマープログラムの内容を確認するとき

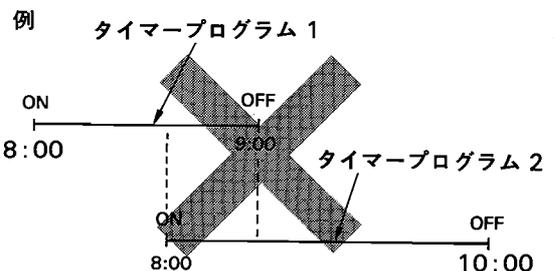
^{プログラム}PROG. 1 キー、^{プログラム}PROG. 2 キーを押すとそれぞれタイマープログラム1, 2の内容を約5秒間表示し、初期状態に戻ります。

ご注意：

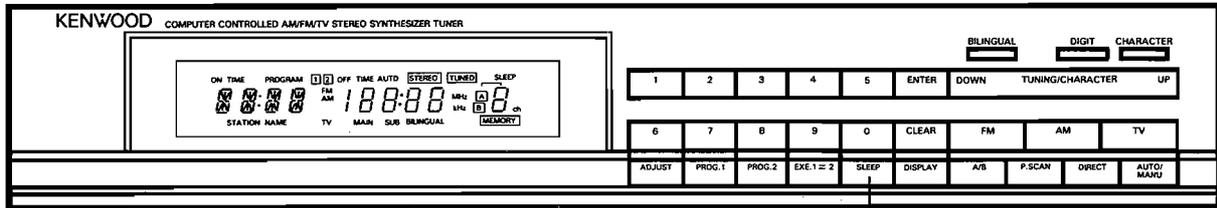
1. タイマー動作しているときに^{EXECUTE}EXECUTE 1/2 キーを押したり、アンプの^{POWER}POWERスイッチを押したりすると、タイマーは正常に動作しなくなります。
2. プログラム1と2は、たがいに時刻が重ならないように設定してください。
 - プログラム1と2では、プログラム2が優先されます。
 - プログラム2の実行中にプログラム1のON時刻がきても、プログラム1は実行されません。
 - プログラム1の実行中にプログラム2のON時刻がきたときは、プログラム2の動作に移ります。
3. プログラム1と2を続けて動作させるときは、1分ずらして設定してください。

例) 8:00から1時間00, 0MHzを受信し、9:00から1時間954kHzを受信する場合、プログラム1はON時刻を8:00に、OFF時刻を8:59に設定し、プログラム2はON時刻を9:00に、OFF時刻を10:00に設定します。

4. タイマー動作状態(^{プログラム}PROGRAMインジケータの1, 2が点灯している状態)で、放送を受信しているとき、タイマープログラムの実行時刻になるとタイマー動作となります。このとき、受信中の放送局は、タイマープログラムで設定された放送局と変わります。放送を録音する場合は必ずタイマープログラムの内容を確認してください。
5. タイマープログラムの内容はキャンセルできません。タイマーを使用しないときは、必ず“タイマープログラムを実行させないとき”にしたがって動作を停止してください。



スリープタイマー機能について



スリープ
SLEEPキー

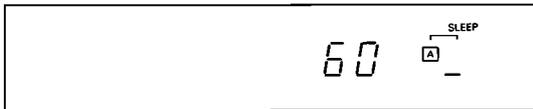
■スリープタイマー操作のしかた

スリープタイマーは、10分単位で60分まで設定することができ、設定した時間が経過すると電源が切れます。

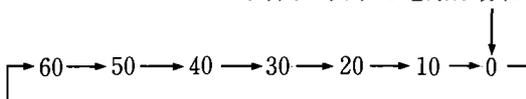
- タイマープログラムが設定されていても、スリープタイマー動作が優先します。

操作のしかた

1. ^{スリープ}SLEEPキーを1回押します。
2. 以後、^{スリープ}SLEEPキーを押すごとに左図のように設定されます。
 - ディスプレイは残時間表示をします。



残時間 0 表示で電源は切れます。



3. 解除するときは、アンプの^{パワー}POWERスイッチを^{スタンバイ}OFF(STAND BY)にしてください。

ご注意：

時計表示が点滅している場合は、スリープ機能は働きません。22ページの“時刻あわせのしかた”を参照して時刻をあわせてください。

サラウンドについて

■サラウンド SURROUNDについて

別売りサラウンドスピーカーを接続し、本機の^{サラウンド}SURROUNDスイッチをONにすると、音場拡大効果が得られます。スピーカーの音量はアンプの^{リア}REAR VOLUMEつまみ、又は、リモートコントロールユニットの^{リア}REAR VOLUMEキーで調整します。

また、^{サラウンド}SURROUNDスイッチは、リモートコントロールユニットの^{サラウンド}SURROUNDキーおよび^{リア}REAR VOLUMEキーを押すと、ONになります。

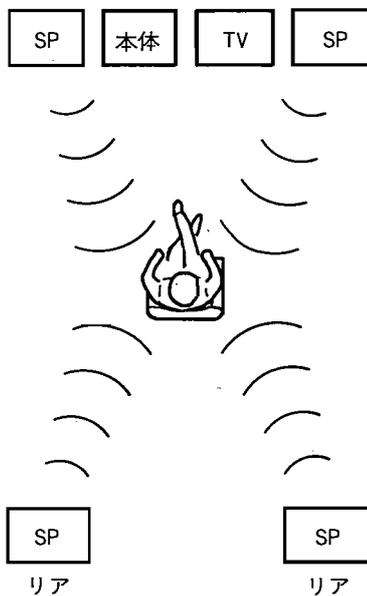
サラウンド機能を使って、臨場感のあるライブサウンドをお楽しみください。

■スピーカーの配置について

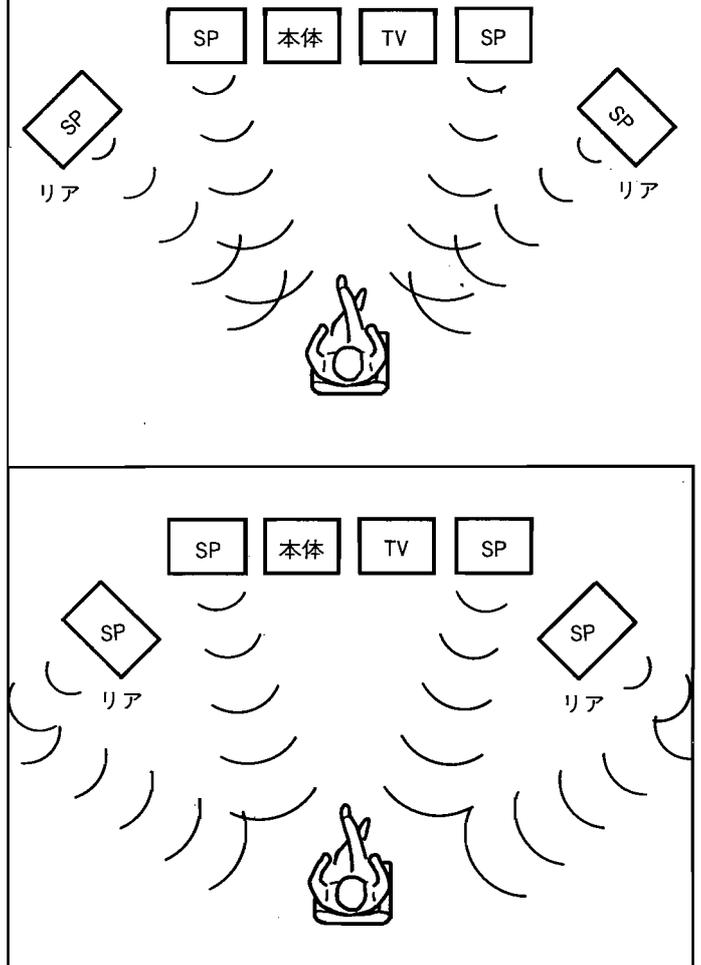
リアスピーカーの配置は、部屋の大きさや残響特性などにより、いろいろな置きかたが考えられます。

ここに示した配置例は、サラウンド空間をより効果的に楽しみいただくための代表的な例です。それ以外にもいろいろな配置があります。お好みにあわせてセットしてお楽しみください。

標準的な配置例



前方に4つのスピーカーを配置する場合



左右の壁がコンクリートのように固い性質の場合には、リアスピーカーを壁に向けると良い効果が得られる場合があります。

故障と思われる症状ですが……

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

リモートコントロールユニット関係

症 状	原 因	処 置
リモートコントロール操作ができない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電池切れ。 2. システムコントロールコード及びオーディオコードが正しく接続されていない。 3. 操作する距離が遠すぎる。または、角度がずれている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい電池に入れかえる。 2. “接続のしかた”を参照してください。 3. 操作範囲内で使用する。

チューナー関係

症 状	原 因	処 置
プリセット後、数字キー(1~0)を押しても放送を受信できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数字キー(1~0)に、受信可能な放送局の周波数がプリセットされていない。 2. 長時間の停電でメモリーが消えている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受信可能な放送局の周波数に同調を取り、数字キー(1~0)にプリセットする。 2. 再度プリセットする。
雑音が入る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車によるイグニッションノイズ。 2. 電気器具の影響によるもの。 3. テレビが近くにある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンテナを道路から離して設置する。 2. 電気器具の電源を切ってみる。 3. テレビを離してください。
プリセットが数字キーの(1~0)にメモリーできない。	背面のプリセットチャンネル切換スイッチが12局の方になっている。	背面のプリセットチャンネル切換スイッチを20局に切り換える。
タイマー(スリープタイマー)動作しない。	停電などにより時計表示が点滅している。	“時刻あわせについて”に従って時計をあわせる。
ディスプレイ表示が消える。	システムコントロール接続プラグの差し込みが不完全。	システムコントロール接続プラグを根本までしっかりと差し込み、一度 AC プラグをコンセントから抜いて、数秒後に再度差し込む。

カセットデッキ関係

症 状	原 因	処 置
テープを交換するとテープカウンターの数字が合わなくなる。 (C-46, C-60テープなど)	テープの厚みやカセットハーフの違いによるもの(テープの巻き径)。	テープの違いによるもので故障ではありません。
テープが回らない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. テープがどちらかに巻きとられている。 2. テープがたるんでいる。 3. 巻き取りムラがあり、テープが重くなっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. テープを巻き戻すか、裏返す。 2. 鉛筆などでたるみをとる。 3. テープを交換してみる。
RECキーを押しても録音できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. カセットテープのツメが折れている。 2. カセットホルダーが完全にしまっていない。 3. 録音レベルが最小の位置にある。 4. アンプの入力切換スイッチがそのTAPE AまたはTAPE Bのポジションになっている。 5. テープが巻きとられている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ツメの折れていないテープを用意する(ツメの折れたテープに再録音したいときはセロテープで穴をふさぐ)。 2. ホルダーを完全にしめる。 3. “テープ録音のしかた”を参照してください。 4. アンプの入力切換スイッチを録音したいソースに切り換えてください。 5. 再生インジケーター/リバーズ再生インジケーターを正しい向きにする。

症 状	原 因	処 置
再生キー(◀, ▶)を押しても音がでない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接続コードの結線違い。 2. ヘッドの汚れ。 3. 巻き取りムラがありテープが重くなっている。 4. テープが未録音。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 別紙添付の“接続のしかた”を参照してください。 2. “ヘッド回りのクリーニング”を参照してください。 3. テープを交換してみる。 4. 録音済テープを入れる。
音がかすれたり高音が出なくなる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘッドが汚れている。 2. テープがのびたり、ワカメ状になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. “ヘッド回りのクリーニング”を参照してください。 2. テープを交換する。
音がひずむ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 録音時、録音レベルを上げすぎている。 2. ソースがひずんでいる。 	“テープ録音のしかた”を参照してください。
雑音大きい。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘッドが磁気を帯びている。 2. 外部からの誘導雑音。 3. 録音レベルが低い。 4. ドルビー録音したテープをDOLBY NRスイッチOFFで再生している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘッドイレイサーで消磁する。 2. 他の電気器具(テレビなど)から離す。 3. “テープ録音のしかた”を参照してください。 4. DOLBY NRスイッチをBかCにする。 DOLBY NRスイッチをBかCにして録音することをおすすめします。
音がふるえる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャプスタン、ピンチローラーの汚れ。 2. テープが一様に巻かれていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. “ヘッド回りのクリーニング”を参照してください。 2. 早送り、または巻き戻してテープを巻き直す。
電源を入れると再生、または録音が始まる。	タイマーTIMERスイッチが“PLAY”または“REC”になっている。	タイマー再生または録音をするとき以外はTIMERスイッチを“OFF”にしておく。
DPSSが誤動作する。	曲間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。	“DPSSについて”を参照してください。
ダビング時、AデッキとBデッキで終了時間が多少異なる。	テープの長さのバラツキ及びデッキのメカニズムの特性による。	多少の時間差は故障ではありません。
EJECTキーを押してもドアが開かない。	録音中、または再生中に押している。	録音中、または再生中は停止状態にしてからEJECTキーを押してください。
操作キーを押しても動作しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. POWERスイッチを押してから3秒以内に押している。 2. テープが入っていない。 3. 巻き取りムラがありテープが重くなっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3秒以上経過してから操作キーを押してください。 2. テープを入れる。 3. テープを交換してみる。
CCRSが動作しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. デッキBに録音可能なテープがセットされていない。 2. CDプレーヤーにディスクがセットされていない。または、ディスクを表裏逆にセットしている。 3. CDのディスクが汚れている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. デッキBに録音可能なテープをセットし、CCRS EDITキーを押す。 2. CDプレーヤーに正しくディスクをセットし、CCRS EDITキーを押す。 3. ディスクをクリーニングしたあと、正しくセットし、CCRS EDITキーを押す。

※ご注意：120分テープは、テープ厚がうすくてワカメ状になりやすいため、ご使用にならないでください。

※ご注意：テープエンドで“キュー”という音がすることがありますが、オートストップ等の保護回路がはたらくため問題ありません。

アンプ、スピーカー関係

症 状	原 因	処 置
スピーカーの左右とも音が出ない。	1. スピーカーコードがはずれている。 2. VOLUMEつまみがいっぱいに絞っている。 3. アダプター端子のショートピンが抜かれている。 4. アンプのMUTINGスイッチがONになっている。	1. アンプとスピーカーの接続を点検してください。 2. 適当な音量にしてください。 3. ショートピンをつける。 4. MUTINGスイッチをOFFにする。
スピーカーの片側だけ音が出ない。	1. スピーカーコードがはずれている。 2. バランス調節が片側いっぱい絞られている。	1. アンプとスピーカーの接続を点検してください。 2. BALANCE調節つまみで調節する。

システム動作中、テレビ画面に妨害を与えることがあります。そのときはテレビを離すかまたは、アンテナ配線をその他の配線から離してください。

アフターサービスについて

- 保証書**—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
- 保証期間**—お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはケンウッドの営業所が**無料修理**いたします。
- 保証期間経過後の修理**についてはお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により有料修理いたします。
- 補修用性能部品の最低保有期間**は製造打切後**8年間(カセットデッキは6年間)**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
- なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご遠慮なくご相談ください。

サービス依頼について

本システムの修理を依頼されるときは、本体のままお渡しにならないで、必ず何かに包装してお渡してください。本体のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつく恐れがありますのでご注意ください。
 ※ダンボール箱は是非保管し、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のためお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にセットをお持ちになるときは、お買上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます。)

ドルビー
 DOLBYの文字および□□のマークは、ドルビーラボラトリーズ ライセンシングコーポレーションの登録商標です。
 カセットデッキはドルビーラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されております。

ステレオ音のエチケット
 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
 特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、十分気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ご注意：あなたが録音したテープは、個人として楽しむほか、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

定格

チューナー

〔FMチューナー部〕

受信周波数範囲……………76MHz～90MHz

アンテナインピーダンス……………75Ω 不平衡

感度……………0.95μV

ステレオセパレーション

1 kHz……………40dB

〔AMチューナー部〕

受信周波数範囲……………531kHz～1602kHz

感度……………14μV, 500μV/m

〔TVチューナー部〕

TVチューナー受信方式…クォーツPLLシンセサイザー方式

VHF/UHFランダム20局(最大)プリセット

音声多重復調回路内蔵(MAIN, SUB切り換え付き)

受信周波数……………VHF 1ch～12ch

UHF 13ch～62ch

〔電源部・その他〕

電源電圧, 電源周波数……………AC100V 50/60Hz

定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)……………10W

外形寸法……………(幅)360×(高さ)69×(奥行)340(mm)

重量……………正味2.7kg

アンプ

〔オーディオ部総合特性〕

定格出力(1kHz, EIAJ, 6Ω)……………80W+80W

サラウンド用リア出力(8Ω, 1kHz, EIAJ)……………10W+10W

全高調波ひずみ率……………0.09%

入力感度及びインピーダンス

PHONO……………2.5mV, 47kΩ

TUNER, AUX, TAPE PLAY……………150mV, 47kΩ

トーンコントロール

BASS……………±10dB(100Hz)

TREBLE……………±10dB(10kHz)

〔D/Aコンバーター特性〕

S/N比(EIAJ)……………100dB

高調波ひずみ率……………0.008%

〔電源部・その他〕

電源電圧, 電源周波数……………AC100V, 50/60Hz

定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)……………130W

外形寸法……………(幅)360×(高さ)129×(奥行)340(mm)

重量……………正味8.5kg

カセットデッキ

トラック方式……………4トラック 2チャンネルステレオ
ヘッド……………Aデッキ, Bデッキ消去各1

録音・再生各1

モーター……………Aデッキ, Bデッキ用各2

ワウ・フラッター……………0.08%(WRMS)

周波数特性(EIAJ)

ノーマルテープ……………20Hz～15,000Hz, ±3dB

クロームテープ……………20Hz～16,000Hz, ±3dB

メタルテープ……………20Hz～16,000Hz, ±3dB

S/N比 EIAJ, メタルテープ……………55dB

ドルビーNR OFF……………58dB

ドルビーB NR ON……………67dB

ドルビーC NR ON……………75dB

外形寸法……………(幅)360×(高さ)119×(奥行)355(mm)

重量……………正味4.6kg

定格

スピーカーシステム(DG99スピーカー部)

型式……………AV対応防磁型3ウェイスピーカーシステム
エンクロージャー型式…バスレフ方式ブックシェルフタイプ
使用スピーカー

ウーハー……………270mmコーン型
スーパーミッド……………150mmコーン型
ツイーター……………25mmコーン型
インピーダンス……………6Ω

最大許容入力

(3WAY)……………120W
(SUPER MID)……………90W

出力音圧レベル

(3WAY)……………91dB/W 1m
(SUPER MID)……………90dB/W 1m

再生周波数特性

(3WAY)……………30Hz～20,000Hz
(SUPER MID)……………50Hz～18,000Hz

外形寸法……………(幅)315×(高さ)589×(奥行)272(mm)
重量……………正味13.0kg(1本)

スピーカーシステム(DG77スピーカー部)

型式……………AV対応防磁型3ウェイスピーカーシステム
エンクロージャー型式…バスレフ方式ブックシェルフタイプ
使用スピーカー

ウーハー……………250mmコーン型
スーパーミッド……………150mmコーン型
ツイーター……………25mmコーン型
インピーダンス……………6Ω

最大許容入力

(3WAY)……………120W
(SUPER MID)……………90W

出力音圧レベル

(3WAY)……………91dB/W 1m
(SUPER MID)……………90dB/W 1m

再生周波数特性

(3WAY)……………33Hz～20,000Hz
(SUPER MID)……………50Hz～18,000Hz

外形寸法……………(幅)315×(高さ)589×(奥行)272(mm)
重量……………12.5kg(1本)

これらの定格及びデザインは、技術開発にともない予告なく変更することがあります。

※「防磁形(EIAJ)」とは、(社)日本電子機械工業会(EIAJ)の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

アフターサービスのお問い合わせは、
購入店または最寄りの当社サービスセンター
営業所をご利用ください。
商品に関するその他のお問い合わせは、
お客様相談室をご利用ください。
電話(03)3486-5515

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
東京都渋谷区渋谷2-17-5(シオノギ渋谷ビル)〒150
電話(03)3486-5511